

GnoTube Gnableを動画で体験!

どんな先生がいるんだろう?
どんな授業をするんだろう?
グノーブルは何が違うんだろう?

www.gnable.com/gt/

2012年 大学受験合格実績
第6期 在籍346名(5月18日現在)

東京大

69名

国立慶医

41名

慶應大

157名

早稲田大

154名

上智大

45名

東大各科類69名

- 理科Ⅰ類 17名
- 理科Ⅱ類 12名
- 理科Ⅲ類 1名
- 文科Ⅰ類 14名
- 文科Ⅱ類 14名
- 文科Ⅲ類 11名

医学部医学科117名

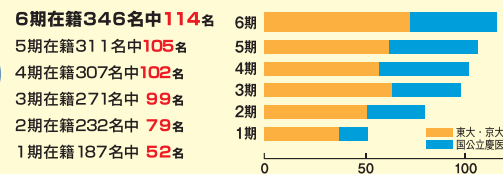
- 東京医科歯科大(医) 6名
- 京都大(医) 1名
- 千葉大(医) 3名
- 筑波大(医) 1名
- 横浜市立大(医) 1名
- 金沢大(医) 2名他
- ※国公立大医計37名

国公立大164名

- 京都大 4名
- 一橋大 18名
- 東工大 10名
- 東外大 7名他

- 慶應大(医) 4名
- 東京慈恵医大(医) 12名
- 順天堂大(医) 13名
- 日本医大(医) 12名
- 昭和大(医) 11名他
- ※私立大医計80名

東大・京大
+
国立慶医
合格実績

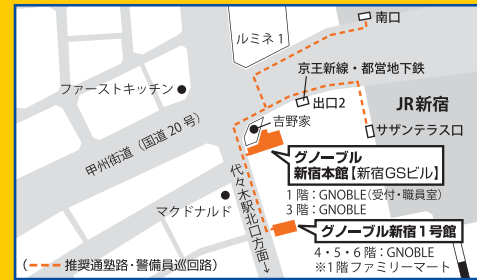


大学受験グノーブル事務局【新宿本館・受付】

お問い合わせ 月曜~金曜15:30~21:00/土曜14:00~21:00/日曜休館(説明会・テスト日除く)

〒151-0053 渋谷区代々木2-8-3 新宿GSビル1F

TEL 03-5371-5487 FAX 03-5371-5488



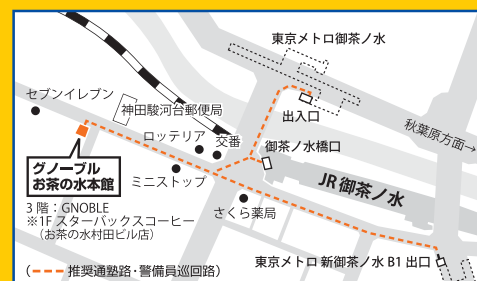
新宿本館 〒151-0053 渋谷区代々木2-8-3
新宿GSビル1F

アクセス: JR新宿 サザンテラス口 徒歩1分(南口徒歩2分)
JR代々木 北口 徒歩5分
京王新線・都営新宿線・都営大江戸線 出口2 徒歩0分



渋谷本館 〒150-0002 渋谷区渋谷1-7-6
青山CRビル1F

アクセス: JR渋谷 宮益坂口 徒歩5分、東京メトロ渋谷 11番出口 徒歩4分
「渋谷ヒカリエ」 青山通り方面出口 徒歩1分



お茶の水本館 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-5-5
村田ビルディング3F(1Fスターバックスコーヒー)

アクセス: JR御茶ノ水 御茶ノ水橋口 徒歩2分
東京メトロ御茶ノ水 徒歩3分
東京メトロ新御茶ノ水 B1出口 徒歩4分

Gno-let

グノレット



グノーブルを活かし、
最大の効果を上げるヒント満載。
6期生合格者インタビュー特集。

6期生 合格者インタビュー

東大文系 P1-12

東大理系 P13-22

医学部 P23-28



6期生合格者インタビュー 東大文系

[座談会出席者] (50音順、本文中敬称略)



いずみ ゆうた
泉 悠太さん
(文Ⅲ・駒場東邦)



すが まりこ
菅 万里子さん
(文Ⅱ・女子学院)



うえはら
上原 ひとみさん
(文Ⅰ・桜蔭)



ながい しゅう
永井 秀さん
(文Ⅱ・開成)



えん しおり
圓 詞央里さん
(文Ⅲ・豊島岡女子)



にしむら こうき
西村 弘毅さん
(文Ⅱ・麻布)



おおしま たくじ
大島 拓司さん
(文Ⅲ・駒場東邦)



のぶかわ えり
信川 絵里さん
(文Ⅲ・筑波大附属)



きくた まさし
菊田 真史さん
(文Ⅲ・浅野)



ふじい たくろう
藤井 拓朗さん
(文Ⅰ・麻布)



こだま しょうへい
小玉 祥平さん
(文Ⅲ・駒場東邦)



まつば ゆうし
松葉 勇志さん
(文Ⅰ・聖光学院)



ささき たかやす
佐々木 孝康さん
(文Ⅲ・駒場東邦)



やまぎし あつし
山岸 敦さん
(文Ⅱ・開成)



さとう まさあき
佐藤 誠亮さん
(文Ⅰ・駒場東邦)

2012年東大・国公立慶医合格者の『声』をお届けします。

7回に分けて実施した座談会を、「東大文系」、「東大理系」、「医学部」にまとめました。膨大な情報量になってはいますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。

たとえ隅から隅まで目を通さなくても、マーカーを片手に参考になる箇所に印をつけながら、次のような目の通し方をしていくのもいいでしょう。

- ・学校の先輩の発言を拾う
- ・目指す科類や学部進学者を追う
- ・(東大や医学部志望でなくても) 気になる見出しに目を通すetc.

勉強を進めて行くときに大切なことは、はじめは先輩の体験や先生の助言を参考にして、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあればぜひ試してみることをお勧めします。

また、勉強に行き詰ったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんなときには、何度でも先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気もらえると思います。

2012年6月 グノレット編集部



Q: グノーブルに入ったきっかけは?

菊田 真史 (文III・浅野)

高2の冬に友人に誘われて、他からもいい塾だと聞いていたので、英語の入塾テストを受けました。最初のクラスは $\alpha 2$ で関田先生に教わっていました。

僕は受験を意識したのが遅くて、大手の予備校に行っても他の人と同じようにしか成績が伸びないと思っていたので、学校の人があまり通ってなくて評判のいいところでやってみたかったです。

菅 万里子 (文II・女子学院)

高1の11月から、英語の* $\alpha 2$ でお世話になりました。父が、返り読みしない英語指導をする塾を探していて、その父の勧めでした。父は、大学受験のためというより、正しい英語学習を私にさせたかったようです。

すが まりこ
菅 万里子 (文II・女子学院)

また、JGの生徒が毎年安定してグノに通っていたということもあって、迷うことなく決めました。

永井 秀 (文II・開成)

僕は中2の秋頃からです。その頃英語の成績が伸び悩んでいまして、グノに通っていた姉が強く勧めてくれたのがきっかけです。

グノに入る前は東大専門塾で英語を習っていましたが、そこの授業がいやになってグノに移ったんです。でも、高1でまたその東大専門塾に戻って来ました。学校のみんながそっちに行っているので少し不安になったからです。でも、「グノでやった方が絶対伸ばせる」と改めて自分で判断して、高1の終わりに再び戻りました。

松葉 勇志 (文I・聖光学院)

高校になったら英語を伸ばしたいと思い、高1の初めから英語の秋好先生にお世話になりました。きっかけは母の勧めです。母親のネットワークで「英語ならグノ」ということが話題になっていたようです。講習を受けて、「自分に合うんじゃないか」と直感したのでグノに決めました。通常授業も少人数制ということを知ったので「親切に教えてくれるだろうな」と思いました。

藤井 拓朗 (文I・麻布)

僕は高1の冬期講習からです。友人が先にグノに通っていて、英語の成績が急に伸びたので理由を聞いたら「グノに通っている」という答えでした。友人の英語の急成長は大きな刺激でした。中学の頃は英語の点数差はさほどありませんでしたが、高校に入ると実力テストなどがあって、そこで顕著に差が現れてきていました。

西村 弘毅 (文II・麻布)

グノに入ったのは高2の夏前です。姉が中山先生にお世話になっていたのがきっかけです。入った時は東大はあまり意識していなくて「ちょっと勉強してみようかな」というくらいの気持ちでしたが、次第に楽しくなってきた成績も上がってという感じです。

信川 絵里 (文III・筑附)

私は高1の5月に英語と数学で入りました。高校受験で通っていた塾の先生が、「あなたの学校の先輩が、この塾に入ってすごく英語が伸びたよ」と教えてくださったのがきっかけです。

塾に通うなら少人数制と思っていたし、東大受験に偏り過ぎている塾もいやでした。グノの場合も東大ということは掲げていますが、その他の大学にも大勢の合格者がいます。それに、東大専門塾より生徒の人数比でいうと合格率はグノの方が高いと思っていました。

佐藤 誠亮 (文I・駒東)

高1の春期講習からです。僕の場合は兄も従兄弟もみんなグノに通っていたので英語を教わるなら「グノしか

ない」と思っていました。

大島 拓司 (文III・駒東)

高2の春から英語で入りました。佐藤くんが勧めてくれたこともあります。まず大手予備校は選択肢の中にありませんでした。そうするとグノを含めて3つくらいの塾に絞られて、その中で、一番宿題が少ないという噂を聞いたのでグノにしました(笑)。

おおしま たくし
大島 拓司 (文III・駒場東邦)えん しおり
圓 詞央里 (文III・豊島岡女子)

圓 詞央里 (文III・豊島岡)

初めてグノで授業を受けたのは中3の春期講習ですが、実際に通い始めたのは高3の4月からです。学校の先生から「塾に入るのなら高2で部活を引退してからにしない」と言われたのでブランクが空いてしまったんです。

中3の春期講習は、母がいろいろ調べてきて勧めてくれたのがきっかけです。私は幾つかの予備校の体験授業も受けたことがありますが、グノの授業は内容が充実していて、いい意味で一番ハードに思えたのでグノに決めました。

泉 悠太 (文III・駒東)

中3の時に英語で入りました。同じ部活の友人がグノに先に入っていて、彼がどんどん英語ができるようになっていくので聞いてみたら、「グノに入

った」と。で、母も、その友だちのお母さんに聞いてみたところ「すごいよ」というお墨付きがあり、入ってみようと思ったんです。

上原 ひとみ (文I・桜蔭)

高1になる春期講習からです。母が知り合いから「グノの英語はいいらしい」という評判を聞いてきて講習に参加してみました。

私の学校は東大専門塾に通う人が多いのですが、私は違うところを探していて、グノは最初は第一候補じゃありませんでした。でも、他も受けてみて、その中でグノが一番いいと思えたので決めました。

小玉 祥平 (文III・駒東)

高2の初めから英語で入りました。初めは通りがかりに校舎の看板を見て塾の存在を知りましたが、説明会に母が出席してみたらとてもいい印象を持ったということで、行ってみようかということになりました。

佐々木 孝康 (文III・駒東)

僕は高2の冬期講習からです。母が「英語はグノがいいらしい」という情報を持ってきて、説明会に行ったんです。そこで本原先生の丁寧な説明に、「入りたい!」とその場で決心しました。

ささき たかやす
佐々木 孝康 (文III・駒場東邦)

周りには東大専門塾に通っている人も多くいましたが、上手くいっている人と落ちこぼれている人の差が激しいなと思っていました。また、塾の中には、「こんな単語も知らなかったらだめだ」と生徒を不安がらせて入塾させようとするところもありました。そんな中でグノの説明には、「全然、雰囲気違う。これは入るしかない!」と

思ったんです。

山岸 敦 (文II・開成)

高1の最初から英語と数学です。きっかけは学校で「英語がイケルらしいぞ」という噂があって、「ちょっと見てみようかな」という感じでした。でも、数学の櫻田先生の授業もすごく良かったです。面白いしよく分かるし、大好きな授業でした。

やまざし あつし
山岸 敦 (文II・開成)

Q: グノーブルで衝撃を受けたことは?

永井 秀 (文II・開成)

教え方が本当に新鮮でした。英文の背景まで分かりやすく説明してもらえると自然に興味湧いて授業に夢中になれるんです。

授業のスピードにも驚きました。授業中はノートを取るのも結構大変で、それで、家で復習していて分からないところが出てきたら、必ず質問に行っていました。

周りに優秀な人がたくさんいたことも衝撃でした。高3で最後のクラス分けテストでも α に上がれずに悔しい思いをしました。でも、その悔しさがバネになったと思います。

ながい しゅう
永井 秀 (文II・開成)

$\alpha 1$ でも、周りには強力な人がたくさんいました。当てられるので名前が分かるじゃないですか。「この人いつも凄いな」と思ったら勝手にライバルだと決めて、勝てるようにしようと復習に打ち込みました。

松葉 勇志 (文I・聖光学院)

初めの頃は、英文を読むのに時間がかかり、授業内でやる演習も「どう考えても終わらない」と思っていました。幸い僕はずっと α でしたが、周りには、その演習を終わらせている人がいたり、僕がてこずっていた要約問題でも9点とか10点(満点)を取っている人もいて、すごい刺激になっていました。

藤井 拓朗 (文I・麻布)

英語はできると自分では思っていたのですが、最初は $\alpha 1$ で、それでもついて行けずに、次のテストでは $\alpha 2$ に落ち、実力がないことに気付かされました。そこから必死に勉強して、次のタームで α に上がれて、その後も必死で α を維持するよう努力していました。

菊田 真史 (文III・浅野)

最初の授業では添削用課題の答案が提出できず、恥ずかしい思いをしました。クラスもなかなか上がれず、周りのレベルの高さを思い知りました。グノに入る前は英語が得意だと思っていたし、自信も持っていたからです。その頃、部活があったので α に振り替えて出席してみたら、先生の問いかけに誰一人間違えることなく答えていく様子を見て衝撃を受けました。「すごい連中だな」と。部活を引退した高3の夏休みに相当頑張って、最後のクラス分けテストで α に入れました。

菅 万里子 (文II・女子学院)

私も周りのレベルの高さが衝撃でした。高2で、 $\alpha 2$ から $\alpha 1$ に上がりましたが、そこに壁があって、かなり努力もしましたし試行錯誤もしました。それが結果的には良かったらしく、高3の初めに α に上がりましたが、周りには本当に優秀な人たちばかりで、「こんな人たちと一緒に戦えるのだろうか」と思っていました。

信川 絵里 (文Ⅲ・筑附)

授業中に周りの人が答えていくのはいい刺激になりました。できる人の名前は自然に覚えたりして。

授業の延長には最初は驚きましたが、先生たちの熱意を感じたというか、先生たちは、時間通りに終えてもいいはずなのに、私たちのためにやってくれていると思って頑張りました。

先生たちは延長もしますが、逆に、私たちの質問にもとことんつきあっていただけました。



西村 弘毅 (文Ⅱ・麻布)

授業時間が長いのに驚いたのは最初だけです。今から考えても集中力を養うのにすごく良かったです。一人で勉強するときにも、集中力を維持できるようになりました。

あと、先生たちが全力で授業する姿も新鮮でした。こっちの身も引き縮まりました。

上原 ひとみ (文Ⅰ・桜蔭)

授業を受けていて飽きないんです。私はちょっと飽きっぽいところがあって、だらだらした授業だとつまらなくなってしまいます。ところがグノでは一回の授業でいくつもの英文を扱うし、そのテーマも様々で興味が途切れることがありませんでした。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

今でもよく覚えています。高1で秋好先生の授業を受けたときに東大の過去問を扱ったことがありました。僕が7割くらい読んだ時に「はい、終わり」と声がかかったんです。ところが周りの人はどうやら終わっているようで「これはまずいな」と。

その後、高1の間に頑張って、よう

やく秋好先生の授業スピードに慣れた頃、高2で中山先生の授業を受けたら、さらに授業のスピードが速くて、添削してもらった答案の点数もひどくて、「まだこの上があるのか」と再び驚かされました。

佐々木 孝康 (文Ⅲ・駒東)

「周りが強い、授業も速い」ってことです。僕は要約のプリントを出すのが遅くて、周りの人が続々と出していくのを横目に頭が真っ白になっていました。すぐ隣にいる人がガッとやり出して、しばらくすると全ての演習プリントが終わった様子だったときには、「おいおい、オレはまだ半分だよ」と思いました。こういう刺激を毎回もらったので、本番に強い精神になれたのかなと思います。

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

入室テストを受けた時、学校でも英語の成績は良かったので、 α 1には入れるかなと考えていたんです。結果を見たら α 3。それがすごく悔しくて必死になりました。そうしたら、次のクラス分けテストでいきなり α 1に上がれました。

その時「こんなものか」とグノをなめていたんです。ところが、 α の授業で本当に衝撃を受けました。スピードと内容の濃さについていくために、また猛勉強しました。

もうひとつの驚きは、グノでは英語を単に受験科目として扱っていないことでした。実は、グノでの英語指導のアプローチがきっかけになって、言語学に興味を持つようになりました。文Ⅲを目指したのも、本格的に言語学を学びたくなったからです。

Q：グノーブルの授業の面白さは？

菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

英語を教えてもらえただけでなく、扱われる英文の質が高く、それを解説する先生の造詣も深かったところです。友人と話をしてもよくグノで扱った英文のことを話題にしていました。

永井 秀 (文Ⅱ・開成)

僕は東大専門塾の英語も知っていますが、先生のレベルがまるで違います。グノの先生は、質問にはいつもその場で、明快に答えてくださいました。先生の人柄も格別です。カリキュラムを形通りに教えるのではなく、奥深い教養をベースにぐんぐん生徒を魅きつけていく、そんな授業だから夢中になれました。

あと、詰め込み式ではないので、英単語も強制的な丸暗記ではなく、英文に出てくる単語を、その成り立ちから教えてくれたので興味が湧いたし、英文を繰り返し音読しながら身につける手法なので、英語のまま解釈できる感覚を養えました。

藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

授業のテンポの良さです。自分がついていけないギリギリのスピードで授業をしていただけたのでスリルがあるというか…。自分が分かっているところをゆっくり解説されても退屈です。よく授業が速いと言われますが、あの速さこそが僕にとっては魅力的だったし、他の塾では体験できないスリルです。



ふじい たくろう
藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)



きくた まさし
菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

松葉 勇志 (文Ⅰ・聖光学院)

授業では時事問題も多く扱われ、世界で起こっている今の出来事を、英語で知ることができました。また、たとえば哲学のような、自分では手に取ることのない題材もグノでは扱ってくれたので興味の幅も広がりました。英語の力も、幅広い教養も身につけられたと思います。



まつば ゆうし
松葉 勇志 (文Ⅰ・聖光学院)

菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

私の場合、グノの授業が面白いと思えるまで少し時間がかかりました。

高1の頃、学校の同級生が単語帳を一生懸命覚えていたので覗いてみると、私は虫食い状態で、それで少し恥ずかしい思いをしました。グノでは単語帳を暗記するようなことはせずに、英文の中で単語を身につけていくやり方なんです。

ところが高3の頃に気がついたら、多分、周りの人より遥かに多い語彙が身につけていて、いろんな英文を不自由なく読めるようになっていました。*コロケーションも自然に身につけていましたから、作文でも文脈に合った言葉が自然に選べるようになり、英語が面白いと思えるようになっていました。

信川 絵里 (文Ⅲ・筑附)

私は先生の話をもっと楽しみにしていました。また、教材で扱っている内容がいろんな分野に及んでいて、授業を通していろんなことを学びました。それまでは、本といえば小説しか読まなかったのですが、生物学や心理学など、サイエンスの分野にも手が伸びるようになりました。

佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒東)

僕も、英文の背景知識を先生が話し

てくださるのをすごく興味深く聞いていました。それまでは全く知らなかった分野に、授業を通して興味を持つようになって、自分が広がった気がします。今までで、一番尊敬できる大人に出会ったと思っています。



さとう まさあき
佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒場東邦)

大島 拓司 (文Ⅲ・駒東)

先生方は僕らの知識欲を刺激してくれました。一時期、先生が話す背景知識の話をもメモしていた時期があったんです。忘れてしまうのもったいないなと思いましたし、吸収できることは何でも吸収しておきたいという思いもありましたし。そんな楽しみがあるから長時間の授業でも頑張れたんだと思います。

圓 詞央里 (文Ⅲ・豊島岡)

私もそれはメモしていましたし、絵にもしていました。そうすると英文の復習をするときにも楽しいし。先生は文系、理系に片寄ることなく、いろんな範囲の英文を扱って解説してくださったので、授業にはいつも夢中になりました。

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

まず、興味が持てる英文を扱ってくれたということ。そして、英語の勉強としてだけでなく、英文の内容についての造詣を深めようという姿勢で授業をしてくださったところ。背景となる事柄を、先生は深く説明してくださいました。そうしたことで興味が喚起され、やる気を持って英文に向き合うことができました。

佐々木 孝康 (文Ⅲ・駒東)

英文の背景を先生がとても生き活きと話してくれるんです。本当に幅の広

い話題を楽しそうに解説してくれて、僕もそうした話をノートの上の方に書いていました。それらは今見返しても充実した内容で、人生に役に立つ宝が僕のノートにはたくさん詰まっているのかなと思っています。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

僕は数学の話を見せてもらいます。高1の頃の^{おだ}櫻田先生の宿題は、量からすると東大専門塾の2分の1ぐらいなんです。もっと少ないかもしれません。ところがそれで数学ができるようになっていくんです。やっぱりツボを押さえた宿題の出し方をされていたんだと思います。また、言葉では伝えにくいことですが、櫻田先生は本当に明るく面白い先生で、授業に行くときの敷居が下がっている感じがするんです。どんな教科でも、できるものって好きになるじゃないですか、櫻田先生は、そうしたいいサイクルに僕を乗せてくれました。

受験学年の数学では、一見関連のなさそうな公式と公式の関係についてなど、受験参考書にはまず載っていないことを教えてもらえて価値がありました。



いずみ ゆうた
泉 悠太 (文Ⅲ・駒場東邦)

泉 悠太 (文Ⅲ・駒東)

グノは授業中に演習して、その問題をその場で新鮮なうちに解説してくれるので頭によく残ります。その解説も、先生が深く内容が分かるように話してくださいましたので、英文の中身と英語の知識がセットになって頭に入ってきて、とても効果的でした。

先生の解説は受験を超えた本当に深いもので、僕は英語そのものに興味を

持つようになりました。僕が文Ⅲを選んだのは、グノで英語を学ぶうちに、さらに言語について学びたいと思ったからです。



上原 ひとみ (文Ⅰ・桜蔭)

丸暗記ではなく、単語を語源までさかのぼり語彙を増やしていくという勉強法を知らなかったのですごく新鮮でした。「単語はこうして有機的に覚えていくものなんだ」と分かって英語が面白くなりました。

グノでは3人の先生に習いましたが、どの先生も、文法事項も単語も、その成り立ちから説明するという考え方が一貫していてそこも良かったです。もちろん先生ごとの個性はそれぞれですが、英語を教えるということに関しては一貫していました。

Q：グノーブルの良かったところは？

菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

先生との距離が近いということですね。大手の予備校などでは、質問するのも大変だと聞きましたが、グノなら分からないところをすぐに聞くことができました。また先生方はとことん付き合ってくれました。

菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

英文を前から読んでスラスラ理解できるようになり、英作文もかなり自由に書けるようになりました。英語についてはマルチに力がついたと感じています。きつい単語覚えとかしていないし、楽しく知識を広げながら様々な英文を読んで音読をしているだけなのに、本当に将来役立つ英語力が身についたと思います。

実は、英語の授業で身につけた教養が、東大の地理の試験でそのまま役立ちました。過去における地図作成の難しさを、「緯度、経度、天文」などの語を使って述べなさい、というような出題だったのですが、これは授業で扱ったプリントに全部答えがありました。こんなことはグノ生以外知らないんじゃないかなと思いながら答えを仕上げました。

永井 秀 (文Ⅱ・開成)

要約の時に先生に教えられたのが、「木を見て、森も見て」ということです。それはどの勉強にも役立つことです。要約をする場合でも他の勉強でも*メタコグニションで全体を見てみると分析力がつくんです。

他塾では細かな接続詞に注目して「逆接のあとに主張が」とか教えられると思うんですけど、そのような型にはまらない英文はいくらでもあります。グノでは、全体の構成を見極める姿勢を指導してくれて、本質的な力が養えたと思います。

一步引いて全体を見るという姿勢を身につけられたことは、これからの自分にとって大きな意味を持つと思います。

また、僕の文法の基礎を作ってくれたのは本原先生だと思っています。基礎と言いましたが、授業ではかなりハイレベルなことをやります。それでも、常に英語的発想の根幹に指摘が及ぶので深く理解できました。



松葉 勇志 (文Ⅰ・聖光学院)

*GSLでリスニング力が格段に上がりました。今年の東大はリスニングが

とても速くてみんな難しかったと言っていました。僕は高速版のGSLを利用していただけでそれほど速いとは思いませんでした。

語順通り解釈していく習慣が身についたことも良かったです。すごく優秀な帰国生の友だちも普通にそうしていると言っていました。ネイティブに少し近づけたように感じています。

藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

高3の授業では、最初に毎回要約がありますが、東大の本番の時も僕は要約を1番最初にやりました。今年の問題などは、全体の構成も主旨も分かりやすい英文だという感じがしました。グノでは多彩な構成の英文で練習を積むので慣れていたのでと思います。



圓 詞央里 (文Ⅲ・豊島岡)

GSLは素晴らしいと思います。英語を学ぶ完璧なシステムができていますので、どの先生に習っても英語の本質が学べると思います。

文法指導ひとつをとっても、他塾では「これ覚えて」と言われると思いますが、グノでは、どうしてこうした成り立ちになったのかという根本を教えてくださいましたので、暗記するという意識ではなく、英語の本質を学びながら自然と理解を深めていけるのが良かったです。

音読が習慣になると、意味の区切りは自然に分かるようになるし、発音も身につきます。これがさらに英語力を積み上げる土台になると思います。

あと、他塾でも生徒との距離を縮めようとして話しかけてくる先生がいるという話を聞きますが、グノの場合、先生が馴れ馴れしくすることはなく、

先生が私たち一人ひとりをちゃんと見てくれているということで距離が近いんです。

佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒東)

英文が面白かったです。たとえ難度が高くても、先生が分かりやすく解説してくれると興味が持てます。結局のところ面白くなければ勉強って続かないし、成績も上がるはずはありません。

音読すると英文が自分のものになる、という感覚を持っていました。久しぶりに読み返してみても以前しっかり音読していた英文は、次に使われている表現もどンドンよみがえりながら読めるし、内容もちゃんと思い出せて、「あぁ、このプリントは大丈夫」って思えました。

信川 絵里 (文Ⅲ・筑附)

最初に返り読みをしないといけないと言われたときは「えっ!？」と思いました。「ネイティブの人は返り読みなどしない」と先生がおっしゃっていて、大学受験のためだけの英語じゃなくて、ネイティブスピーカーと同じ英語センスを私たちは学んでいるんだと、納得がいき、私もこのやり方に早く慣れようがんばりました。慣れてしまえば、それまで教わってきた読み方が不自然で不自由だということが良く分かりました。



信川 絵里 (文Ⅲ・筑波大附属)

GSLは、耳だけの復習にも便利で、ネイティブスピーカーの発音をまねて自分の発音も良くなるし、区切り方やイントネーションも身につきました。黙読のスピードも格段に上がりました。

感動したのは、先生に相談に行ったときです。先生が話してくださった話は、今の私に向けての話で、他の人に

は一度もしたことがないと思える内容で、真剣に私のことを考えてくださっているのが伝わってきて、何回救われたか分かりません。

西村 弘毅 (文Ⅱ・麻布)

音読を毎日ちゃんとやっていたので、次第に読むスピードも速くなり、問題を解くのも確実に速くなりました。授業の解説で、細部も全体の主旨もよく理解している英文を声に出して読む、というのを繰り返してやっていると英文の理解力が格段に向上していくのを実感できます。こうした勉強法を知ったことはとても有意義でした。

大島 拓司 (文Ⅲ・駒東)

GSLを使って音読を習慣化すると短時間で効果が上がります。学校で他塾に通っている人が大量の問題を解いているのを見て、そんなことしなくても英語の力は身につくのに、と思うことがしばしばありました。

やはり音読をすると自分の実力や理解度がシビアに分かってくるので、言葉葉を学ぶ上で音読するのは欠かせないことだと思います。また、音読になれば黙読していても頭の中に音声が出てくるような感覚に変わっていききました。

佐々木 孝康 (文Ⅲ・駒東)

一番グノらしいのは、接頭辞や接尾辞、語根などを理解して派生的に覚えていくという指導じゃないでしょうか。単語帳を覚えることもなく、気付けば単語帳に出てくる単語はどれも知っているという状態になっています。グノの授業は最短距離で語彙を増やせる最高の勉強法だと思います。

あと、グノの先生は、人として尊敬できます。それは、先生がこちらを尊重してくれているからだと思います。こちらが間違っても、できるようになるのを「待ってくれている」、という先生の思いがこちらに伝わってくる接し方だったと思います。先生の人柄の良さが、質問のしやすさ、授業への気持ちの入りやすさに貢献しているところがありました。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

僕の経験では、最も恐ろしい速さで英語を読み、それを深く面白く解説する先生が中山先生でした。そういう先生に教われたことは良かったです。先生は僕たちを引っ張っていくというよりは、僕たちの自立を促すという接し方でした。「待ってくれている」というのは、そういう意味でもあると思います。

英語の勉強は8割ぐらいをグノに依存していましたが、確実に成績が上がりました。



小玉 祥平 (文Ⅲ・駒場東邦)

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

英語だけは受験科目の中でも特殊だと思えます。他の教科は大学受験ともなると、かなりレベルが高くなっています。それに比べて英語は、ネイティブの人なら当たり前前にできるレベルに少しでも追いつこうとしている段階だと思えます。で、グノのいいところは、返り読みをしないなどネイティブの人が当然持っている感覚を指導してくれるところなんです。

上原 ひとみ (文Ⅰ・桜蔭)

先生ご自身が、英文の背景をととても深く調べていらっしゃるって、それを私たちに分かりやすく活き活きとお話になっている姿を見て、学ぶ姿勢を見習いたいというも思っていました。

英語の指導については、グノはバランスがいいと思っていました。私には帰国生の友だちがいますが、その人は英語もペラペラだし読むスピードも速いんですが、幼少期の頃に英語を身につけてしまったので、文法の知識はあ

*メタコグニション：自分の考えや行動自体を対象化して把握すること。

*GSL：6学年すべてにオリジナル音声教材を用意しています。合理的練習法（ワークアウト）も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

まり持っていませんでした。グノではネイティブ的な感覚に従って英語を教えてくださいますが、文法などをちょうどよく織り交ぜて、頭でも納得しながら、体にもなじませていくというやり方で、とてもバランスが良かったです。

泉 悠太 (文Ⅲ・駒東)

他塾では、高圧的な態度の先生もいました。グノの先生は英語力も教養もあるのにそういう態度ではなく、優しく接してくれました。

GSLを使っただけの学習は、発音も良くなり、リスニング力も上がり、しかも、ネイティブ的な感覚も身につきます。東大によく出る一語削除問題でも、英文をぱっと見て「おかしくねえ？」と察知する能力が磨かれました。

Q: グノーブルに不安を感じたことは?

藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

同じ学校の友だちも結構たくさん通っていたので、不安を感じたことはありませんでした。

菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

僕も不安はありませんでした。むしろ「正しい道を進んでいる」という手応えを持っていました。卒業生の数に対しての東大合格者の割合を考えても大丈夫だと思っていました。



きくた まさし
菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

初めは不安でした。学校の友人は単語帳を一生懸命覚えていたので、単語帳を使った暗記をしないグノで大丈夫だろうかと思って父にも相談しました。「信じてやっていけ」と言われました(笑)。

最後の方は学校で授業を受けていて

も「ああ、周りの人よりできる」と思えるようになりました。

永井 秀 (文Ⅱ・開成)

全然、不安はありませんでした。東大専門塾と比べてもこっちの方がいいと、両方を比べて思っていたので。

松葉 勇志 (文Ⅰ・聖光学院)

僕は自分に対する不安がありました。グノには優秀な人が多く集まってきているので、「自分はまだまだ実力が足りないな」と。でも、ここにいれば、その優秀な仲間に加われるはずだと、常に前向きに考えていました。

西村 弘毅 (文Ⅱ・麻布)

全く不安はありませんでした。グノに通っていた同じ学校の人たちも英語の成績はよかったですし。

信川 絵里 (文Ⅲ・筑附)

高3になった時に友人が単語帳をやり始めたのを見て先生に相談しました。そうしたら「今まで授業でやった長文を復習すればいい」とおっしゃられたんです。その言葉を信じて続けたら、模試を受けても知らない単語はほとんど減って行って、「やっぱり先生の言う通りだった」と納得できました。



のぶかわ えり
信川 絵里 (文Ⅲ・筑波大附属)

佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒東)

高3の夏休み前に先生から、「夏の間も今までグノでやった英文の復習が中心」と言われて、「新しい英文は夏期講習だけでいいの?」と不安になりました。でも先生を信じてみようと思い、それだけを徹底的にやったら夏の模試でかなりいい点数が取れました。同じ英文を繰り返し復習することの効果を実感しました。東大合格後の今でもグノの英文を読み続けています。

圓 詞央里 (文Ⅲ・豊島岡)

授業を受けていけばレベルが高いことはひしひしと伝わってくるので、不安とか全くなかったです。直前にも、グノの英文を読み返し、GSLを聞いているだけで、自分の力が上がっている手応えを感じていました。

上原 ひとみ (文Ⅰ・桜蔭)

塾に通っていなかった頃には不安がありました。学校には中1から東大専門塾に通っている人が多くいて、単語を毎週覚えたり、すごい量の宿題をやっていたりして、「遅れているのかな」と、ずっと不安でした。でも、高1でグノに入ってから不安は解消されました。学校でも高2あたりから単語帳から出題される単語テストがありましたが、ほとんどグノでやったものばかりで、「受験まで大丈夫」と思いました。



うえはら
上原 ひとみ (文Ⅰ・桜蔭)

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

不安に思ったことはあります。高3になると、東大専門塾に通っている人たちは東大の過去問をバンバンやっているわけです。ところがグノは東大に特化した勉強をしているわけじゃないので、東大の問題に対する対応力が養われないのではないかと感じたことがありました。

でも、結局、東大専門塾に通っている周りの友だちと比べて、英語のセンスというか、英語の基礎力がグノに通っている人の方が圧倒的に優れていると思えるようになりました。「彼らより高い次元の英語を学んでいる」と考えられたので不安もなくなりました。

佐々木 孝康 (文Ⅲ・駒東)

自分があまり伸びていないと感じる

時期があって、先生に何度か聞きました。「これで大丈夫ですか」とか「もっと単語帳とかやるべきですか」とか。でも先生は常に一貫して「単語帳での暗記は必要ありません」と言ってくさったので安心しました。「グノの英語を復習して、新しい英文を読んでいけば、必ずできるようになります」と自信を持って言っていたので、暗記に走らず、グノのやり方で安心して勉強を進められました。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

高1のころは英語が全然できなくて、僕は単語帳に手を染めました。でも、グノで習った単語は当然分かりますし、知らない単語が出てきても類推することができました。類推できるというのは、まさにグノの学習効果の表れです。また、高2、高3になって改めて見直してみると、結局どこかのタイミングでグノで習っていたものばかりで「単語帳の暗記は不要」という結論に至りました。

泉 悠太 (文Ⅲ・駒東)

グノに入る前は学校で単語テストがあったので、単語帳を覚えました。でも、そのやり方では、汎用性がないことに気付くことになりました。単語帳に出てきた意味しか覚えていなくて、訳せたととしても内容が頭に入っていない感覚があって。でもグノで英語を習い始め、文章の中で単語を覚えていくようになってからはスッと文が読めて内容が頭に入ってくるようになりました。それからは単語帳で覚えるやり方は捨てました。

Q: 学校でグノーブルの評判は?

菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

地理的に遠い学校なので通っているのは数人でしたけど、学校のテストの上位者が張り出されると、英語でグノに通っている人がたいてい載っていました。

永井 秀 (文Ⅱ・開成)

中2の頃はまるで知名度もなく、グノと言っても「なんだそりゃ」という

感じでしたが、高2くらいから学校の模試で、グノの人が上位に入っているんです。すると「グノーブルすげえ!」みたいな感じで評判が上がり、今では「英語のグノ」は定着しています。

菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

うちの学校は受験についてあまり話が出ません。高3頃になってようやく「あの子英語ができるよね、グノでしょ」みたいな感じで噂が出るくらいでした。

藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

評判は良かったです。麻布では高2から塾に入る人が多くて、グノにも結構たくさん入りました。「英語ができる人はグノ」と言われるように自然になっていました。



ふじい たくろう
藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

西村 弘毅 (文Ⅱ・麻布)

麻布ではめっちゃ評判が良かったです。同級生の中で今年東大を落ちてしまった友人も「英語はグノに行こうかな」と言ってる人が結構います。

佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒東)

高1の頃は、グノは無名でした。僕がグノーブルの名前を広めていたので、同級生の何人かは入ってくれました。

大島 拓司 (文Ⅲ・駒東)

佐藤君の普及の甲斐もあって、結局、高3ではかなりの駒東生がいました。英語ができる人はみんなグノみたいな感じになっていったと思います。

圓 詞央里 (文Ⅲ・豊島岡)

私の学校では、グノの名前は知っていても、授業を受けたことがない人ばかりなので、良さは全然広まっていないという状態でした。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

英語に関してはかなりの知名度があ

りました。実際、僕はそうした噂を聞いてグノを知りました。開成はもともと東大専門塾に行くのが当たり前という感じでしたが、そうした人たちがグノに移って「グノはいいね」と言うわけですから、それが本当の評価なんじゃないかと思います。



やまぎし あつし
山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

泉 悠太 (文Ⅲ・駒東)

直前期になって「おれも入っておけば良かった」ということはずいぶん聞きました。



いずみ ゆうた
泉 悠太 (文Ⅲ・駒場東邦)

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

廊下を歩けばグノ生に当たる、というくらい駒東では人気があります。英語は本当に評判が良く、悪い評判は聞いたことがないです。通ってなかった人から「グノだったらお前みたい」に英語ができたのに」と言われたこともありました。

ただ、僕がここで言いたいのは、グノの数学の評判ももっと上がるべきだということです。

Q: 英語以外で印象的だった科目は?

松葉 勇志 (文Ⅰ・聖光学院)

行村先生の国語です。生徒を一人ひとりよく見てくれて、毎回添削してい

ただけです。先生のキャラクターが際立っていてとても惹きつけられるし、テンポが良くて笑いも絶えない授業です。一人ずつ適確にアドバイスをいただけるし、どう点数を最大化するかというところに軸を置いた授業で、確実に力がつきました。



ながい しゅう
永井 秀 (文Ⅱ・開成)

永井 秀 (文Ⅱ・開成)

僕も高1の時に古文を受けていました。先生がとてもユニークなのですが、面白いだけではなく、締めるところは締めるメリハリのある授業でした。「古文は1年やれば十分」と言われましたが、実際にそれで十分で、学校でも成績は常に上の方をキープできました。

菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

私も古文と現代文を教わって、しっかり基礎力をつけていただきました。高1の頃はまだ受験に対する意識が低いので、堅苦しいことを話されても集中力が持ちません。その点、行村先生はとにかく面白くて、まるで舞台に立つ役者さんのように動き回りながら教えてくださるので、思わず授業にのめり込んでしまいました。

藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

僕も短期間ですが、現代文・古文・漢文の授業に参加して、とても上手く勉強のツボを教えてくださいました。それ以降は国語で塾に通うこともなく受験に臨むことができました。

信川 絵里 (文Ⅲ・筑附)

グノの古文はすごいです。楽しさもすごいのですが、教え方が本当に上手くて、1年間受けただけで、学校で常に満点近い点数を取れて楽ができました。

数学はテキストも良かったし、先生

の教え方も良かったです。先生は私のクセをきちんと分析してくださって、すぐ分かりやすい授業でした。

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

グノは数学もいいです。普通は、問題を大量に解かせて、経験値で対処させようという手法だと思いますが、グノは違います。数学の道具を鍛えてくれて、その道具をどの場合に使えばいいかの判断力を鍛えてくれます。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

グノの数学では、高校数学の全体像を俯瞰させてくれました。それで、各分野の有機的なつながりを理解できました。こうした有機性というのはどの学問にも通底するものだと思うし、グノでは、英数どちらの科目からもそれを学べました。

泉 悠太 (文Ⅲ・駒東)

高2の冬に違う塾の冬期講習で数学を受講したら、東大の過去問や京大の過去問をいきなりやらされて、何もできずに眠くなってしまい、「もう行かなくていい」と思いました。

グノの数学には高3の春期講習から。越川先生にお世話になりました。解説も丁寧で分かりやすく、先生の用意して下さった段階を踏んだ教材を解いていくうちに自然に経験値が上がり、センターを終わったあたりでグンと伸びました。

Q: 東大受験で役立ったことは?

藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

本番で集中して、しっかり頭を使うのは結構、難しいと思います。でも、グノでいつもやっている演習の気持ちでやって本番でも力が出せました。実際、東大の英語に出る特徴的な形式、たとえば、要約、段落整序、リスニング、一語句削除など、どれも授業でやっているし、しかも、本番よりてこずる問題を用意してもらっていたので、本番でも慌てることはありません。

松葉 勇志 (文Ⅰ・聖光学院)

今年リスニングの3 (A) のラジ

オ番組がめちゃくちゃ速くて一瞬「大変かな」と思いましたが、GSLでもっと速い英文を聞き込んでいたので、結局は充分聞き取ることができました。あと、1 (B) の段落整序を最後にまわしましたが、そこに20分くらい時間をかけられました。速読力をつけていただいて本当に良かったなと思いました。

菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

今年の英語は、1番の出題形式が1年のタイプに戻り、リスニングは以前より速くて、5番の総合読解もちょっと変わっていたという印象でした。でもグノで培ってきた英語力があって、ちょっとくらい変わったとしても焦ることなく対応できたと思います。



すが まりこ
菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

東大の英語は、表面的に読めているだけでは対処できなくて、中身を理解していないと難しいと思います。特に今年はそうだったように思います。試験開始直後は、焦っていたのか、浅い読み方をしてしまいましたが、すぐに頭を切り替えました。英文を深く読み取っていくやり方は、グノの演習のときのやり方なので、いつもの読み方に切り替えた、ということで難しくありませんでした。

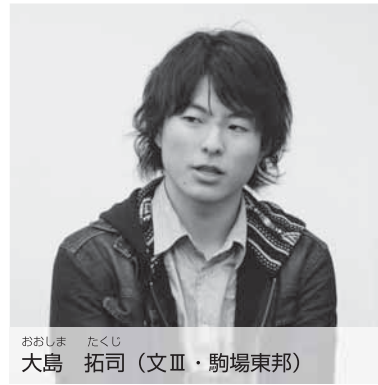
永井 秀 (文Ⅱ・開成)

英語ではあきらかにミスったところも自覚しています。それでも授業で積み重ねてきたところは安定してとれていたもので、多少ミスっても致命傷になるようなことはありませんでした。

圓 詞央里 (文Ⅲ・豊島岡)

グノの英語では要約と英作文を毎回

添削していただけるので、模試でも本番でもそこには自信が持てました。グノの勉強法は総合的な英語力が身につきますから、直前期もグノでやったことの復習をやっていました。過去問もあまり解いていません。



おおしま たくし
大島 拓司 (文Ⅲ・駒場東邦)

大島 拓司 (文Ⅲ・駒東)

他塾に通っていた友人が、英文要約をあまりやったことがなく「慣れない」と言っていました。要約は慣れないと難しいし、配点も大きいので慣れていないのはキツイと思います。グノで要約を添削してくださったのは大きかったし、毎回やっているうちに、長文全体の意味を把握していくのも楽にできるようになり、本番にもそれは生きたと思います。



さとう まさあき
佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒場東邦)

佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒東)

グノの高3の授業は毎回、要約演習です。回数を重ねて素早く論旨をつかめるようになっていたことは大きかったです。本番では10分で終われば上出来と思っていましたが、実際には7分くらいで終わり、「勝った」と思い、いい波に乗れました。

西村 弘毅 (文Ⅱ・麻布)

グノで英文の速読力がついたので、本番では結構時間が余りました。

信川 絵里 (文Ⅲ・筑附)

英語では、先生が直前講習でおっしゃっていたことが結構出て、「あ、これだ!」と思って波に乗れました。

国語や数学では、試験中にパニックになってしまったことがあって、その時にはグノの先生の顔が頭に浮かびました。「先生の解き方をなぞればいいんだ」と思っていたら落ち着きました。上原 ひとみ (文Ⅰ・桜蔭)

演習時間内に全てのプリントを解き終わることをいつも意識して英語の授業に臨んでいたため、本番では結構時間が余りました。あと、毎週要約をやっている、いろんなパターンの文章に触れていたのではどんな問題が出ても「何とかできるだろう」と自信が持てました。

泉 悠太 (文Ⅲ・駒東)

グノの英文で習った内容が、そのまま地理の試験で出ました。先生の解説も印象に残っていたので、「わあ、やったわ」と思いました。今回の地理はとて難しく、そんな中で1問は確実に取ったという自信があったので、その後の問題も落ち着いて解けました。グノの英語は幅広い分野にまでつながっていることを受験本番で実感しました。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

まず数学から言いますと、もともと数学が得意ではなかったにもかかわらず、解法の引き出しを多く持ったことが役立ちました。

英語に関しては、1年前だったら120分であれだけの量をやるというのは無理でしたが、余裕を持って終えられました。道具としての英語を使う速度は、1年前とは比べものにならないほど上がりました。

佐々木 孝康 (文Ⅲ・駒東)

僕は英語で1番の要約ができなかったんです。グノでずっとやっていたので、だめな答案を書いているのが自分で分かるんです(笑)。でも、そこで焦ることなく先に進めました。他の問



ささき たかやす
佐々木 孝康 (文Ⅲ・駒場東邦)

題が解ける自信があったからだと思います。特に、2番の英作文は、相当添削してもらっていたので、落ち着いてやることができました。

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

日頃から鍛えられていたので、時間的に厳しい東大の英語にビビらないで臨むことができたことです。やはり平常心で試験に臨めるのはすごく大きいことじゃないでしょうか。

あと数学に関しては、問題を見た瞬間に2、3通りの道筋が見えてきて、もう少し眺めているうちに解法が絞れてくるような感覚を何度か味わいました。グノで数学を受けていて良かったなと感じました。

Q: 東大を目指す後輩にアドバイスを。

菊田 真史 (文Ⅲ・浅野)

グノを信じて学んでいけば、東大合格に必要な英語力は全部演習の中で培われるはずなので、復習を怠らずに頑張ってください。なにしろ復習が大事です。

菅 万里子 (文Ⅱ・女子学院)

やはり英語の実力が安定しないと受験勉強はうまくいかないと思います。その点、グノの勉強で英語は安定します。具体的には、音読は本当に大切です。英文を速く深く読むためには音読の習慣化は欠かせません。やり方で迷ったら先生に相談しながら、音読をしっかりやるのがいいと思います。

永井 秀 (文Ⅱ・開成)

やりたい教科ばかりやるのではなく、自分を分析して自分に足りないところを伸ばす努力をすべきです。グノに通

6期生合格者インタビュー 東大理系

【座談会出席者】(50音順、本文中敬称略)



いずた しん
泉田 森さん
(理Ⅱ・学芸大附属)



おおの しゅんすけ
大野 峻典さん
(理Ⅱ・麻布)



のぐち たいしん
野口 大心さん
(理Ⅱ・学芸大附属)



かつしま けいすけ
勝島 啓介さん
(理Ⅰ・筑波大附属駒場)



のむら しゅんいちろう
野村 俊一郎さん
(理Ⅰ・開成)



かどの ゆきき
角笠 裕基さん
(理Ⅱ・開成)



ひらやま けんた
平山 健太さん
(理Ⅱ・駒場東邦)



こうげつ しょうた
纈纈 将太さん
(理Ⅱ・麻布)



まつだ ひろき
松田 洋樹さん
(理Ⅱ・筑波大附属駒場)



なかじま よしあき
中島 義耀さん
(理Ⅱ・世田谷学園)



やすい たかあき
安居 孝晃さん
(理Ⅰ・筑波大附属駒場)



やまむら としき
山村 俊貴さん
(理Ⅰ・学芸大附属)

っていると英語が楽しくて英語に偏りがちになると思いますが、そこをちょっと我慢して、受験に向けて伸ばすべきところをしっかり伸ばす努力が大事です。

松葉 勇志 (文Ⅰ・聖光学院)

グノでまず英語を磐石にすることで、そこが上手くいくと他の教科を勉強する上でもすごく楽になると思います。

藤井 拓朗 (文Ⅰ・麻布)

やっぱり受験では英語は大切ですが、英語については、グノの授業を真面目に受けて家で復習をしっかりやっていたら大丈夫です。

佐藤 誠亮 (文Ⅰ・駒東)

毎日やることです。僕も、短時間でも英語は毎日やらなきゃダメだって気付けて、そこから伸びたんです。それで英語が得点源になりました。

大島 拓司 (文Ⅲ・駒東)

自分なりのアドバイスでいうと、「高1までは遊んでいいよ」ということになります。ただ高2から真面目にグノに通い、そこで習うことを消化していけば、英語に関しては大丈夫です。

圓 詞央里 (文Ⅲ・豊島岡)

東大に限って言うと、科目数が多いというのが負担になります。早い段階で自分に合う塾を見つけておくことが大事だと思います。いろんな塾に通うと結局は負担が増えるので、そこにも注意すべきだと思います。



にしむら こうき
西村 弘毅さん (文Ⅱ・麻布)

西村 弘毅 (文Ⅱ・麻布)

英語については、グノの先生の言うことを聞いて復習をきっちりやっていたら、東大は大丈夫だと思います。

信川 絵里 (文Ⅲ・筑附)

受験勉強は「長かったようで短い

と言う人が多いですが、私には長く辛い日々でした。でも自分の中で思考プロセスが変わっていったところもあるし、辛い分、成長したなと思えるところもあります。

先生に相談したとき、「もちろん受かることを目指して頑張るわけだけど、たとえ落ちたとしても、自分の中に積み重ねてきたものは変わらない」とおっしゃられたんです。また、「自分がコントロールできることは自分の責任で努力して、他人のことや合格最低点のことは気にしないでいい」という言い方もされました。随分気持ちがすっきりして、目の前のことに集中できました。

自分の中身が成長したかどうか、合否という2つの結果があって、私は今回たまたま2つとも達成できたのですが、1つだけでも自分を肯定できるような努力が大切だと思います。

上原 ひとみ (文Ⅰ・桜蔭)

やっぱり学校の授業が大切だと思います。特に中高一貫ならば、中学の間は学校の授業をしっかり聞くべきです。そこで培われる基礎力は、その時期だからこそ築ける土台で、そこは大切にしてほしいと思います。

泉 悠太 (文Ⅲ・駒東)

少し違う意味ですが、僕も学校は大切だと思います。特別授業が始まって、学校に行かなくてもいいとなると、ぱったり来なくなる人がいますが、学校に行くと皆と話すというのは精神の安定にもつながりますし、活力のもとにもなると思います。

山岸 敦 (文Ⅱ・開成)

「東大の問題は基本的な良問」という論評をよく聞きますが、暗記して基本的な知識や公式を覚えておけばいいというのではなく、基本の運用力を見ているテストだと思います。英語にしてもあれだけの量を出してくるということは、基本的な英文をスピーディーに使いこなせる力を測られていると思います。学校でも塾でも成り行きで授業を受けているのではなく、先週やっ

たことと今週やったことのつながりをしっかり考えて、有機的な思考力を備えるようにすることが大事だと思います。

そういう意味では、グノでは、英数ともに、そういう力を体得させていただけたと思っています。

佐々木 孝康 (文Ⅲ・駒東)

依存心があると受かりにくい気がします。たとえグノに通っていても、先生にすぎるように通っていても受かりづらいんじゃないかと思います。まずは自分の足で歩き、間違った方向に行かないように正しい道を先生に示してもらおうと考えた方がいいと思うんです。それを、おんぶしてもらってゴールに連れて行ってもらおうと考えもダメですね。



こだま しょうへい
小玉 祥平さん (文Ⅲ・駒場東邦)

小玉 祥平 (文Ⅲ・駒東)

自分が受験勉強をしていて重要だなと思ったのは、やっぱり基礎力です。それを鍛えるのが学校であり、グノだと思います。当たり前のことを当たり前でできるようになっていないと、有機的な思考力にはつながらないと思います。

あともう1つだけ言いたいのは、復習するにしても1回やって終わりじゃなくて、3回目が一番おいしいということです。授業で教わったことを1回復習するだけでは、あまり頭に入っていません。2回目でも自分になじみにくいことはかなり抜けています。しばらく時間を置いて3回目の見直しをするとものすごく定着していく感覚があります。3回目の復習というのはパラ見でもいいんです。1回やった教材はとことん使い尽くすことが大事です。

Q：グノーブルに入ったきっかけは？

野村 俊一郎（理Ⅰ・開成）

僕は宇宙工学をやりたいくて、それならやっぱり東大を目指そうと大手予備校の英語に通い始めたのが高1でした。

ところが、黒板でいちいち構文解析をしていくやり方が自分には合わなくて、もっといい塾はないかと学校の友人に聞きまわりました。それでグノのことを知って、冬期講習を受けてみました。「あ、これだ！」と思って英語はグノに決めました。

野口 大心（理Ⅱ・学芸）

高校受験で開成にも合格していて、その頃から東大を意識していました。高1から予備校にも通ったのですが、毎回テストをやって、出来が悪いと呼び出されてというやり方にはなじみませんでした。高2の春期でグノの英語を受けてみたのは、学芸の友だちに聞いたからです。

グノは何もかもが違いました。授業のテンポが良くてだらだら同じ長文の解説を続けないし、扱う題材も面白くて、解説も興味深くて、もう、ホント集中できる密度の濃い授業でした。「これはいい塾だ！」と思ってすぐに心が決まりました。



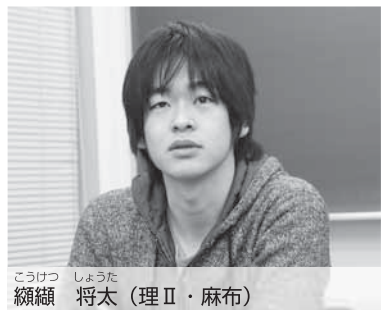
中島 義耀（理Ⅱ・世田谷）

僕の場合、最初のきっかけは「お母さんネットワーク」です。中3の終わり頃から英語塾を探していたときに、母が評判を聞きつけて来ました。学校の同級生がグノの数学に通っていて、そのお母さんが「グノは英語もいいのよ」という話をうちの母にして、それで講習を受けてみました。

以前から祖父の関係で外国の方と接する機会が多かったので、英語を受験科目としてではなく言語として考えたかったです。グノでは、英文を前から処理するとか、単語一つとってもその成り立ちから教えてくれて、日本人が漢字を見た時にある程度意味が推測できるのと同じように、英単語からもそれができるということを教わりました。本当にセンセーショナルでした。

額縁 将太（理Ⅱ・麻布）

中3の頃、数学で入りました。学校の授業を怠け過ぎて数学が壊滅的だったので、友人にどこかに数学のいい先生がいないかと聞いたところ、「グノの櫻田先生！」って教えてくれたんです。噂通り素晴らしく、おかげで、高1までに数学を基礎から建て直せました。



もともと先生が一方的に話して、コミュニケーションのとれない塾や予備校では伸びる気がしなかったのが、英語も少人数制と決めていました。それで、英語でもグノに通い始めました。

安居 孝晃（理Ⅰ・筑駒）

高1の夏期講習から英語で入りました。中学の時は別の塾に通っていましたが、そこが上手くいかなくて、学校の同級生に紹介されてグノを知りました。

大野 峻典（理Ⅱ・麻布）

塾には中2の頃から大手に通っていましたが、違うなあと思い、中3から英語と数学でグノに移りました。中学受験で通っていた塾が発行していた雑誌に、中山先生の名前がよく載っていたのを母が覚えていて、資料を取り寄せました。

勝島 啓介（理Ⅰ・筑駒）

高1の春期講習から英語と数学で入

りました。高校から塾に行こうと思っていたので、中3からグノに通っていた友人に噂を聞いていて4日間の春期講習を受けてみました。すぐに、自分にピッタリな塾だと実感したのでグノに通い続けました。

角埜 裕基（理Ⅱ・開成）

すでに通っていた学校の友人から紹介されて、中3最後の講習に通ってみて気に入って、高1の初めから英語で入りました。直感的に「この塾面白い！」と思ったので他塾と比較することはありませんでした。部活をやったので、振り替えがきくのも魅力でした。

山村 俊貴（理Ⅰ・学芸）

高校受験で通っていた塾に行って、たまたま目にしたのが「高校への数学」という月刊誌で、その広告にテニス部OBで理Ⅲに行った梶原さんのインタビューが載っていたんです。「おお、梶原さんだ！」と目を引きつけられ、「先輩は、グノーブルという塾に通っていたのか」と初めてグノを知りました。

グノのことをネットで調べてみたら、音読が良かった、教養が身に付く、興味深い英文を扱っているといった声がとても多く、「どんな塾だろう」と思って講習を受けてみて、「これはいい塾だ」との確信を持ちました。入ったのは高2の冬でした。

泉田 森（理Ⅱ・学芸）

僕は山村君と同じテニス部で、彼がグノの英語を絶賛していたのがきっかけです。彼が、しきりにグノの独自のシステムについて語っていたし、グノに行っている人たちは実際に英語がよくできるし、「これは本物かな」という思いが湧いて来たんです。それで高



3の夏から入りました。

学芸のテニス部は、一昨年のは梶原さん、去年の玉光さん、そして山村君と僕と3年続けてグノにお世話になり東大に合格できました。1つ下の後輩もグノに通っているの、来年はぜひ東大に受かってもらって歴史を絶やさないようにしてもらいたいと思っています（笑）。

平山 健太（理Ⅱ・駒東）

中3の春期講習からです。駒東で陸上部の友人がグノに通っていて話を聞いたのがきっかけです。その頃の僕は学校で英語の成績が悪く、「これは塾に行かなきゃヤバイ」と思っていたんです。確実に実力がつきそうな塾として選んだのがグノでした。

松田 洋樹（理Ⅱ・筑駒）

高2になる前に英語の塾選びについて迷っていて、同級生たちに通っている塾の英語がどんな感じか聞いてまわりました。グノに通っている5人が、口を揃えて「グノの英語はものすごくいい」と勧めてくれました。



それまでもいろんな塾の授業を受けていました。中学の時は親の意向で東大専門塾に入りましたがすぐにやめ、その後も大手予備校から個別指導までまわりました。他のところは「英語は暗記科目」という感じで、なかなか伸びそうな気配がありませんでした。一方グノは、目指すところが他とは違っていたし、何より授業が楽しそうだったので、グノに決めました。

Q：グノーブルで衝撃を受けたことは？

大野 峻典（理Ⅱ・麻布）

グノのクラス分けテストではなかなか結果が出なくて、いつクラスが落ち

るのかという危機感との戦いでしたし、実際に落とされてかなりへこんだ時期もありました。高3で落ちたときには、先生から「伸びる時期と停滞する時期があって、勉強のやり方自体は間違っていないし、今頑張っておけば伸びる時にグンと伸びるから」と言葉をかけていただいて、それを信じて頑張り続けました。

額縁 将太（理Ⅱ・麻布）

周りの人が優秀なので、自分がしっかり勉強しているつもりでも、「足りないな」と感じることの連続でした。高2の冬にαからα2に落ちたことがあって、さすがにその時は絶望感を味わいました。学校の友だちは皆、上のクラスにいましたし。模試では全国的に見ても自分はいいところにいるはずなのに、グノでは「まだまだなんだな」と思いました。でもそこから奮起して猛勉強しました。今思えばですが、あれがなかったらこんなに英語は伸びていなかったと思います。本当に悔しくて勉強しました。

特に大事にしていたのは授業の直後の復習です。少し時間が経つと先生のおっしゃったことを忘れてしまいます。そして、休みの日やテスト前にも同じ教材の復習をしていました。先生方はかなり早口なので、ボイスレコーダーが欲しいと思った時期もあります（笑）。でも、自分の頭で直後に思い出した方が結局は効果的だと思います。

勝島 啓介（理Ⅰ・筑駒）

僕は高2まであまり熱心に勉強しなくてもαにいられました。でも、高3の最後のクラス分けテストで落ちるのがいやで、その数か月前からはしっかりと



りやり始めました。授業帰りの電車の中ではその日の教材を見直していましたが、それをやっておくと数日経ってから読み返しても細かな内容まで思い出せます。この頃に、復習がうまく習慣化できたと思います。

安居 孝晃（理Ⅰ・筑駒）

僕はα2からのスタートで、途中からα1に上がったのですが、その後またα2に落ちてしまっていて、そこから音読をしっかりとやるようになったら、高3の最後のクラス分けテストでようやくαに上がることができました。僕の場合、復習＝音読です。知識面の見直しをしたら、あとはひたすら、スラスラ読めるようになるまで音読していました。



衝撃と言えば、当てられることでした。いつもヒヤヒヤしていました。でも、それだから頑張れたのも事実です。あと、お帰り問題。自分が半分も読んでいないのに、もう帰って行く人もいて、半ばあきれていました。

角埜 裕基（理Ⅱ・開成）

英語は特別できる方ではなかったの、周りの人ができるのは当たり前だと思っていて劣等感のようなものは感じませんでした。純粋に英語が上達していくのを喜んでいました。ネイティブと同じ感覚で前から英文を読みこなせるようになってくると英語が楽しくなってきた、さらに勉強したくなるといういいサイクルが生まれたと思います。

中島 義耀（理Ⅱ・世田谷）

1週間ごとに勉強のサイクルが組み立てやすい仕組みになっているなと思いました。英語の場合、グノの宿題と授業、そしてその復習をすれば良くて、他のことは一切する必要がなかったの。

野村 俊一郎 (理Ⅰ・開成)

高3で英文要約を毎回行うことの意義を聞いて、それが僕には衝撃でした。要約って英文が読めるだけではできなくて、書かれていることの主旨を正しく捉えて、それを間違いなく伝えられるようにまとめるのは結構大変です。でも、それがあらゆる学問の基礎だと説明されて、単に受験勉強のためだけじゃないと分かり、それは衝撃でした。



山村 俊貴 (理Ⅰ・学芸)

演習の量が多く、時間内にプリントが全部終わったこともないし、解説のスピードも速くて大変でした。英語の復習が覚えることじゃなくて、音読が中心というのも変わっていました。でも、家で音読する時間は僕には楽しくて、ちょっとホッとする時間でした。それに、音読を毎日繰り返していると、3日後とか4日後に、「あっ、そういうことだったんだ!」と初めて気付いたり、理解が深まったりする瞬間があって、それが僕は好きでした。

泉田 森 (理Ⅱ・学芸)

僕も演習時間内に問題を解き終えられたことはありませんでしたが、他にはない解説のスピードはちょうどよい刺激でした。眠くならないし、こっこの頭も活性化するんです。

あと、グノでは、先生も受付の人も、僕たちに気持ちよく接してくれて居心地が良かったです。

平山 健太 (理Ⅱ・駒東)

確かに演習時間に比して量が多いんですけど、終わっている人もいないじゃないですか。それが目指すべきものだと思っていました。お帰り問題でも自分がまだ文章の一段落目を読んでいる

時に、さっさと帰っていく人もいて、「できない領域では決してないはずだ」と自分を鼓舞していました。

松田 洋樹 (理Ⅱ・筑駒)

授業中に当てられたり、その場で添削してもらえて点数までついて返ってくるという経験がなかったので驚きました。高2の4月で初めて受けた授業は衝撃でした。最初の演習プリントは要約でしたが、やり方が全然分からず、結局ひどい点数で返ってきました。また、先生に当てられた周りの人がどんどん答えていくのに、自分は単語の意味も文法も、何もかもが分からなくて呆然としていました。でもそこで火がついた気がしました。

あと、グノの先生全員に言えることですが、初回から名前を覚えてくださって、それは安心感につながりました。

Q: グノーブルの授業の面白さは?

勝島 啓介 (理Ⅰ・筑駒)

やっぱり、少人数で一方向的ではないところ。大人数制で講義みたいだと集中力を保つのが難しく眠くなります。

大野 峻典 (理Ⅱ・麻布)

中3からグノで英数を習っているのに授業に集中できるのは僕には当たり前でした。でも、高3になって他塾の理科に行き驚きました。こんなに眠くなる授業があるんだって。グノでは眠くなるなんてありえないんです。数学では面白い問題をいつも先生が用意してくださいましたし、英文の題材も興味深いものばかりで、問題に向かう瞬間に頭がフル回転していました。それに解説の内容が濃くて、それを理解するのに頭を使い、先生の話をもメモするのに手を使つて、グノの授業は本当に充実していました。

安居 孝晃 (理Ⅰ・筑駒)

英文のテーマが幅広くて、自分にとっては未知のものも多くて、気がつけば先生の話に耳を傾けていました。他の塾だとやってきた宿題を解説して終わりってのが普通で、それだと「え〜

?」って感じですよ。

瀬戸 将太 (理Ⅱ・麻布)

授業内で演習して、すぐに添削してもらえて解説が受けられる、というのは大きな違いです。授業内の演習は集中できるし、解説を受けるときにも積極的な気持ちになれます。先生が点数やコメントを残してくれるので、自分の実力や課題を毎回確認することもできます。

それから、英文で扱うテーマが多種多様で、受験勉強をしながら幅広い教養が身につけられて、いい授業を受けているなど、いつも思っていました。

先生が単語の成り立ちを説明してくださるのも僕は大好きでした。英単語が生き活きと輝き出して身近なものに思えたり、別の単語と有機的につながっていくのはドラマを見ているような感じもありました。もちろん印象にも残りやすくて語彙力にも自信が持てるようになりました。



角埜 裕基 (理Ⅱ・開成)

「へー、こんなことがあるのか!」と思える、新しい教養が身につく文章を、日本語ではなく英語で読める、という達成感が大きかったです。高度で面白い文章を英語のまま読めている自分がいるという気持ち、さらに次への意欲につながっていたように思います。



中島 義耀 (理Ⅱ・世田谷)

グノの英語の授業は、教養面でも有

意義でした。毎回の長文は興味深く、そこで学んだことを自慢げに友だちに話したこともありました(笑)。

あと、印象に残っているのは、本原先生が英作文の文法説明をされた時、他の参考書をいくら読んでもさっぱり理解できなかったことが、ひと言の説明で「なるほど、そういうことだったのか!」と腑に落ちて理解できたことがありました。気付きや発見が毎回の授業にたくさんつまっていることがグノの面白さでした。

野口 大心 (理Ⅱ・学芸)

授業内で英文の背景について語られる先生の話がものすごく興味深かったのでそこを特にがっつき聞いていました。「これはノートに残しておかなきゃ」ということが随分ありました。英語の勉強をしているというより、英語で勉強をしているという感じで、その感覚が良かったです。

また、理系、文系を問わず幅広い内容を扱うのでいろんな分野に啓発されて、今は大学でやりたいことがありすぎて大変です。入学後がとても楽しみになりました。

野村 俊一郎 (理Ⅰ・開成)

大学受験の勉強をするために塾に通っているのに、グノで英語を学んでいる時は大学受験のための勉強という意識はほとんどなくて、海外の人とコミュニケーションをとるためだったり、情報を仕入れたりするための英語力が上達する、という喜びが感じられました。

内容の興味深さ、生き活きと先生が話される様子、それと授業のスピード感。そういったものが合わさって僕たちの脳も活性化され、それで大切なことがどんどん頭に入ってきたんだと思います。

平山 健太 (理Ⅱ・駒東)

そもそも勉強を退屈なものと考えたことはありません。ただ、ゲームとかもっと面白そうだというだけで(笑)。どの教科でもできるようになれば楽しいものです。これは勉強に限らず何で



もそうだと思います。グノの良さは、どうすれば英語ができるようになるかを具体的に提示して導いてくれることだと思います。

泉田 森 (理Ⅱ・学芸)

僕の場合、勉強自体がもともと楽しいというのはなかったのですが、でも、楽しんでいる人の方が伸びるし、楽しんだ方が楽だとは分かっていた、どの科目にも何かしら楽しみを見つけようとしていました。

でも、グノの英語はそんなことしなくても、好奇心がくすぐられる授業でした。演習のときに全然内容が分からなかった英文の解説を先生がすると、全体も細部も本当によく理解できて、自分の知識や思考の幅が一挙に広がる感覚がありました。深く理解していれば、復習もやる気が湧くし効果も上がります。



山村 俊貴 (理Ⅰ・学芸大附属)

扱う英文がとても興味深く、学校に行ってもグノに通っている友人としゃべってそれを話題にしていました。あと、授業の内容に興味を持ってインターネットで調べてみることもよくありました。授業を受けておしまいというのではなく、自分の中に「知りたい意欲」が残るような授業だったと思います。

Q: グノーブルの良かったところは?

勝島 啓介 (理Ⅰ・筑駒)

グノの先生は僕たち一人ひとりに話しかけてくれているという感じがありました。それで授業にも集中できたし、もちろん寝ることもないし(笑)、1回の授業で得るのが大きかったと思います。

英単語を身につけるには単語帳の暗記が普通だと思います。でも、グノは単語帳を使いません。文章の音読や黙読で身につけていくというやり方です。暗記する努力なんてしていないのに、気付いたら単語帳に載っている単語はどれも分かるようになっていました。

大野 峻典 (理Ⅱ・麻布)

グノの最大の魅力は、質問のしやすさかもしれません。僕はどんなことでもすぐに質問に行きました。高校生になっても、中学レベルの質問をしていましたが、関田先生が丁寧に応えてくれた上に、「頑張ってるね」とまで言ってくれて、大きな励みになっていました。勉強の進め方、模試の成績のこと、数学で別の解き方の可能性、英語のイディオムの由来など、気になるところがあればいつも先生のところに通っていました。

それと、グノの先生は質が高く、人間的に優れた方ばかりだったと思います。熱意にもあふれていて、授業はかなり延長してまで、その日の区切りまでしっかり解説していただきました。授業の延長を、大変だとか嫌だとか感じたことは一度もありません。



安居 孝晃 (理Ⅰ・筑駒)

先生との距離が近いという点は大きいです。困った時すぐに質問に行ける

環境だったのは素晴らしかったと思います。

授業の延長はむしろありがたかったです。英文の途中で翌週まで持ち越しではやる気が失せます。自分で残りをやろうと思うと、解説や全訳があっても、結局かなりの時間がかかってしまうことになるわけで。効率性を考えても学びの深さを考えても、授業の延長は僕らにとってありがたいことでした。

あと、僕は直前期には*GSLを聞き込んでいました。試験前にも聞いていました。そうすると自然と頭が英語モードに切り替わるという効果がありました。

額綱 将太 (理II・麻布)

GSLは毎日やっていました。絶大な効果がありました。GSLで普段から耳を鍛えていけば、リスニングの試験でも耳が自然についていきます。音読をすれば、英語圏の人の読み方や考え方も身につけられます。僕は、ターム毎の要約の文章を全部そらんでやるぐらいに読み込んでいました。

麻布で海外の高校生と国際交流会をやっている、僕はそれに参加していましたが、その時に自分でも驚くほどコミュニケーションがスムーズにとれました。普段から音読を欠かさずやっていたので、自分の言いたいことが口について出てきたんだと思います。

大野 峻典 (理II・麻布)

僕も同じ会に参加して、カナダ、中国、韓国の高中生と交流していました。GSLのおかげであまり不自由じゃありませんでした。僕は、ネイティブスピーカーのリズムでそのまま言葉が出てくるくらいまでGSLをやり込んでいました。GSLは日常生活の一部になっていたの、風呂でも聞けるスピーカーを買ってBGMのようにして聞いていたくらいです。たまに学校行事でGSLのできない日があると、頭の中の英語感覚が鈍っているような気もしていました。

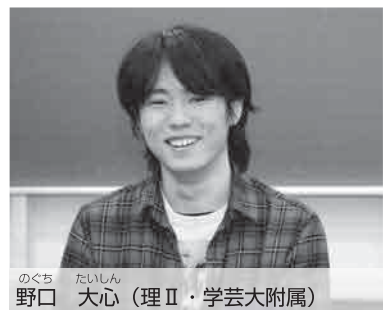
中島 義耀 (理II・世田谷)

僕もGSLですね。iPodに入れられて、いつでも聞けるのでとても便利でした。

他科目の勉強で疲れたときにも聞いていました。英語脳って言うんでしょうか。聞いていけば英語の頭に切り替わっていくような感覚が持てて、ある程度の難しさとスピードのあったGSLはすごく好きでした。

野口 大心 (理II・学芸)

僕も高速バージョンのGSLは好きでした。電車の中でも口パクでシャドウイングをしていましたが、それで前からの処理に慣れて速読につながったと思っています。



のぐち たいしん
野口 大心 (理II・学芸大附属)

野村 俊一郎 (理I・開成)

先生がよくおっしゃっていたように、相手に伝えようとして音読すると、英語脳が活性化されるというか、英語で自分が言いたいことを話している感覚になるんです。

また単語帳を使わないというのは本当に良かったです。グノで扱う教材の復習だけで、覚えようとしなくても大切な単語は頭に入りました。日本語の意味と対応させて単語を覚えるのではなく、英文の流れの中で身につけていくことで、英語として使える語彙が増えました。それこそ、日本語では表せない意味も、英語のまま頭に入れていくことができるようになりました。

グノで学んで自由度が確実に増えました。たとえば海外のニュースはその国のサイトでの報道を読むなど、ネットにある英語のページが自分にとっての普通の情報源になりました。

松田 洋樹 (理II・筑駒)

「返り読みせず前から順に意味を取ってください」とグノの先生に言われ、最初は、それが驚きでした。学校でも他でも、関係代名詞が出てきたらそこを囲って戻って訳しなさいと教わってきたんです。でも、実際に前から読めるようになってみると、その方が自然で、圧倒的に速く意味が取れるようになりました。最初は大変かと思いましたが、先生方が説明してくださる法則に従って練習していたら、意外にすんなりとなじめました。

あと、毎回の教材が音声データ(GSL)としてダウンロードできたので、電車の中でもいつも聞いていました。授業の復習になるのはもちろん、リスニングの練習にもなったし、英語の感覚が磨かれたと思います。

僕は*国際生物学オリンピックに日本代表として出場させていただきましたが、60数カ国から集まってきた人たちと、自分が思っていた以上に英語で聞くことも話すこともでき、それは明らかにグノで学んだおかげでした。
*松田君は、第22回国際生物学オリンピック台湾大会で金メダルに輝きました。



やまむら としき
山村 俊貴 (理I・学芸大附属)

山村 俊貴 (理I・学芸)

GSLは最高です。音読やシャドウイングに励んでいました。人に伝えるようにやるという意識は忘れないようにやっていました。TED(www.ted.com)という英語のプレゼンのサイトがあって、それを先生に勧めていただき、自分が舞台の上でプレゼンしているかのように体も動かして毎日やっていました。グノの場合は同じ音読を勧めるにしても、なぜそれをすべきなのか、どうすれば効果的なのかといった

裏づけを先生がきちんと教えてくれるところが素晴らしかったです。



ひらやま けんた
平山 健太 (理II・駒場東邦)

平山 健太 (理II・駒東)

グノでは市販の単語帳を暗記するようなことは一切しません。英文中に新しく出てきた単語について、そこでの微妙なニュアンスや、その語の成り立ちを興味深く解説してくれるんです。英単語が単なるアルファベットの羅列じゃなくなりました。そこにいろんなものが見えてきたり、全然別の単語だと思っていたもの同士がつながったり…。英語って面白いなって。単語はただ覚えるものだと教わっていた僕にはすごく新鮮でした。



いずた しん
泉田 森 (理II・学芸大附属)

泉田 森 (理II・学芸)

英語圏の人はその語順で頭を働かせているんだから、それに慣れないと本当には理解できないって言われて、よく納得できました。でも、僕の場合は、語順通りに解釈できるようになるのに2ヶ月ぐらいかかりました。できるようになってみると一挙に英語が楽に読めるようになって、以前はいかに効率の悪い勉強法をしていたのかと思いました。実は、慣れるまでは、先生の解説の真似を頭の中でしていました。英文を区切りまで読んですぐに訳していく

やり方です。あれをやっていると読んでいることが、ずっと頭に入ってくる感じで、そのうち日本語に置き換えなくても内容が入って来始めました。

あと、受付の職員の方々もとても感じが良くてアットホームなのが良かったです。

大野 峻典 (理II・麻布)

具体的にグノのどこが良かったという話じゃありませんが、何となく、グノが一番いい塾なんだろうと思っていました。高1の頃は学校で知っている人はあまりいませんでした。その頃は、僕も受験学年になったら塾を変えるのかな、と思っていたぐらいです。ところが、学校の優秀な人たちが次々グノに集まってくるし、グノにいる人は学校でどんどん上位を取っていくという流れになっていました。

Q: グノーブルに不安を感じたことは?

勝島 啓介 (理I・筑駒)

全く不安はありませんでした。学校内の模試の順位を見ても、グノで間違いないなと思っていました。

額綱 将太 (理II・麻布)

高2の頃模試を受けてみて、英語の点数が予想外に良くて、偏差値も80ぐらいとれました。それで、グノ以外ないと確信していました。単語帳を使わないグノのやり方にも全く不安はありませんでした。麻布でも周りには単語帳をガリガリやっていた人もいましたが、そうした人たちより単語力も凌駕していると思っていましたし。むしろそんな人たちに単語の成り立ちを教えていて、感謝されていたぐらいでした。

中島 義耀 (理II・世田谷)

英語と日本語訳を対応させている単語帳にはもともと違和感がありました。「頭」と「head」違って違うように、英単語の概念を簡単に日本語に置き換えられるものじゃないし。

それでも、受験に必要な分量の語彙が身につけているかは不安が残る、最後の最後に単語帳に目を通しました。

ところが、分からない単語はほぼ見当たらず、グノの勉強法がいかに効率的かということ改めて実感しました。



なかじま よしあき
中島 義耀 (理II・世田谷学園)

野口 大心 (理II・学芸)

僕は、たとえ知らない単語が英文に出てきても、文脈や語の成り立ちとか、語感で推測するやり方を身につけさせてもらっていたし、模試でも成績は悪くなかったので不安はありませんでした。

野村 俊一郎 (理I・開成)

学校で、単語帳をやっている人がたくさんいて、正直僕知らない単語もありましたけど、単語力だけあっても英文が読めるわけじゃありません。たとえ、英単語と日本語訳の対応で負けていても、それは英語力の本質ではないので、不安はありませんでした。むしろ多少分からない単語があっても英文を読みこなせることが大切です。

角埜 裕基 (理II・開成)

単語帳を使って英語と日本語を対応させながら覚えると、英文を読むときに一度日本語に変換してから再構築するという作業が必要になります。グノの読み方が身につくと、英文のままスピーディに理解できます。

山村 俊貴 (理I・学芸)

不安に思うことはなかったです。むしろ、違う塾に通っている人たちが単語帳ばかりやっているのを見て「よし、これなら勝てるな」と思っていました。先生は常々、「グノの勉強だけやっていれば大丈夫だから」とおっしゃっていましたが、授業を受け続けて、成績もある程度伴っていた僕にとってその言葉はすごく説得力がありました。授業を受けて、しっかり復習することだけ肝に銘じていました。

泉田 森 (理II・学芸)

高3の夏から入ったので、早くからグノに通っている人たちより英文に触れている量が少なく、そのことについては若干の不安がありました。それで、グノ以外にも意識的に英文に触れるようにしていました。でも、基本的にはグノの授業をなるべく吸収しようと復習中心の勉強でした。あるときから、不安はもう感じていませんでした。

平山 健太 (理II・駒東)

僕は、とにかく英語に苦手意識があったし、学校の課題にもなっていたので、とりあえず単語帳だけは早くからやっていました。また過去問もかなりやりました。もちろんグノの授業を中心に据えていましたが、昔から英語ができないという気持ちがあって、それは α に定着しても続いていた。でもそれは、 α にいる周りの人に圧倒されていたということで、他の塾に通っている人を見て焦りを感じることはありませんでした。

Q：学校でグノーブルの評判は？

安居 孝晃 (理I・筑駒)

結構、良かったです。

勝島 啓介 (理I・筑駒)

「英語はグノがいいよね」という声はよく耳にしていました。

額縁 将太 (理II・麻布)

麻布では英語の評判が学内中に知れ渡っていて、後輩も知っていました。英語の成績がいい人に話かけると「お前もグノか」ということが度々ありました。



大野 峻典 (理II・麻布)

大野 峻典 (理II・麻布)

学校の中で、「お前、グノだから英

語ができるだろう」みたいなことをずいぶん言われました。英語の評判は定着していた感じですね。僕は、「実は数学もやばいぞ」という話をよくしていました (笑)。

野村 俊一郎 (理I・開成)

僕の学校ではやはり他塾が多数派です。でも、英語の優秀な人は何人もグノに通っていて、その人たちからグノの評判を聞いて僕も来たんです。

角埜 裕基 (理II・開成)

僕らの学校では「グノ＝英語」でした。野村君を初めとしてできる人が通っているということもあって、認知度が上がってきているところじゃないでしょうか。

野口 大心 (理II・学芸)

グノは学芸御用達の英語塾という感じで周りの友だちも大勢通っていました。評判も良かったです。「グノーブルは今ある英語塾の中で最強だ」と聞いたことがあり、内心、「そりゃそうだ」と思ったことがありました (笑)。

中島 義耀 (理II・世田谷)

僕の学校からは去年の先輩がグノから理Iに合格しています。うちの学校でもグノはここ数年急激に伸びてきている塾という声をよく聞きます。僕と同じクラスでも、英語に通っている人も、数学で通っている人もいました。

平山 健太 (理II・駒東)

僕が入った中3の頃は駒東生でグノに通っている人はあまり見当たりませんでした。高2になったあたりからグノに通う人が目立ち始め、学校で英語ができる人はほとんどグノ、という状態になっていました。

松田 洋樹 (理II・筑駒)

多くの人が通っていたというわけではありませんでしたが、高3の頃は学校の実力テストで英語の上位者にグノの人が何人もいて、「グノ勢」みたいなことを言われていました。

山村 俊貴 (理I・学芸)

僕自身はグノに入る前にはグノの噂はあまり聞いていませんでしたが、だ

んだんグノのことは広まってきている気がします。あるとき「この単語の由来はこうで」と僕が言いかけたら、「うわ、出た、グノ」と言われました (笑)。グノで語源を重視していることが知られてきているのだと思います。

Q：英語以外で印象的だった科目は？

大野 峻典 (理II・麻布)

僕はグノの数学が大好きで、中3から高3までお世話になりました。最初は纒田先生でしたが、その頃は受験という気分もなかったし勉強への高いモチベーションもありませんでしたが、纒田先生の授業には夢中でしたし、学校の勉強はそれほどしなくても成績は良かったです。

学年が上がるにつれて、僕には数学の素質があまりないらしいことを自覚するようになりました。でも、グノの数学では高度な原理を授けてもらえて、それで解くのもまた楽しくなったし、才能ある人と同じように解けるようにもなりました。



勝島 啓介 (理I・筑波大附属駒場)

勝島 啓介 (理I・筑駒)

僕は終始数学が得意科目だったので、その基礎を作ってくれたのは纒田先生です。授業も本当に面白かったです。

額縁 将太 (理II・麻布)

手塚先生にIII Cまで教わりましたが、手塚先生は人柄も明るく、接しやすかったです。必要となれば大学範囲にまで踏み込んだ解説をしてくれ、好奇心を満たしてくれるいい授業でした。

Q：東大受験で役立ったことは？

額縁 将太 (理II・麻布)

返り読みをせずに、速く正確に英文の意味が取れるようになったことです。圧倒的に時間を短縮でき、本番では見直しができるくらいの余裕がありました。

安居 孝晃 (理I・筑駒)

読むスピードが上がったことが大きいですね。数か月前に初めて東大の問題を通してやった時は「こんな終わるわけない」と思っていたのですが、本番ではスラスラ解くことができ、実力がついていたことを実感できました。僕の場合その域に達したのは、直前になってようやくって感じでしたけど。



安居 孝晃 (理I・筑波大附属駒場)

大野 峻典 (理II・麻布)

僕も夏に東大模試を受けた時は終わらなくて、先生に相談したことがあります。そうしたら「この時期は誰でもそうだよ。でも、 α や $\alpha 1$ にいる人は終わらないなんてことは絶対ないから」と言っていて自信を持ち直しました。実際、直前期に過去問をやってみても解き終わるようになっていたし、本番も全然時間を気にすることなく臨めました。冬期とか直前講習の頃になると、グノで扱う英文は東大よりはるかに難しいので、その意味でも余裕が持てました。

勝島 啓介 (理I・筑駒)

僕も同じで、グノの演習で時間のないうちで難しい英文をスピーディに読む習慣がついていたので、本番も十分時間内に終わることができました。

直前期は、英語は寝る前の30分間に、これまでやってきたプリントを読み直す程度で力を維持できたので、他科目

に時間を割けました。

角埜 裕基 (理II・開成)

授業の最初はいつも要約演習だったので、そこに集中して向かうのはカラダが覚えていた感じでした。本番の試験が始まってグノの授業と同じように始められたことが良かったです。

平山 健太 (理II・駒東)

僕も、東大の英語は要約が最初にあるので、「いつも通り、これで点がとれるぞ」と思いながらスタートできました。

中島 義耀 (理II・世田谷)

英作文もグノの授業でかなりの量を毎回書いていました。本番でもスラスラ書き終えて次の問題に移れたこともグノのおかげだと思っています。あとGSL効果も大きかったと思います。今回はかなり早口のラジオ番組を聞き取るものでしたが、GSLのスピードに慣れていたので「このくらいのスピードなら大丈夫」と思っていました。

野口 大心 (理II・学芸)

今年の要約問題は国家のアイデンティティといった内容だったのですが、グノでいつも先生の話ががっちり聞いていたので、英文の背景までも理解できたし、読みやすかったです。また英作文や段落整序も、普段やってきたことがそのまま活かされたと思います。



野村 俊一郎 (理I・開成)

野村 俊一郎 (理I・開成)

僕も同じで、普段の授業がそのまま役立ちました。

泉田 森 (理II・学芸)

グノの授業を受けて、多分一番良かったのが、英文を読むスピードに自信が持てるようになったことです。だから精神的に楽に臨めましたし、あと、

英作文がスラスラ書けるようになったのも大きかったです。焦って読み飛ばさなくても間に合うという確信があって、気持ちにも時間にも余裕がありました。



松田 洋樹 (理II・筑波大附属駒場)

松田 洋樹 (理II・筑駒)

東大の英語は文章量が多いので、ゆっくりに着実に読んでいくと間に合いません。要約と段落整序と最後の長文は特に文章量が多いわりにちゃんと読まなくてはなりません。グノの授業で普段から大量の、しかも頭を使う演習をやっていたので、本番も普段の授業と同じ感覚でできたので良かったです。

やはり普段の授業で自分の全力の速度で読むという練習をしていないと、本番でいきなり速く読もうと思っても頭に入ってこないのではないのでしょうか。

山村 俊貴 (理I・学芸)

グノで扱ってきた英文の幅広さが役立ちました。I (B)の段落整序は、自分の息子が老人に席を譲るという内容だったのですが、昔グノでやった内容に、自分の息子の成長を見て感動するというのがあるって、「なんか似てるぞ！」思い、そこから「これはイケル！」と確信めいたものが生まれ、波に乗れました。

Q：東大を目指す後輩にアドバイスを。

額縁 将太 (理II・麻布)

グノで習っているから英語には自信があるし「これで大丈夫」と思っていると、英語力は落ちてしまうと思います。10分でもいいので他の教科が忙しくても英語には毎日触れるようにすべきです。

6期生合格者インタビュー 医学部

【座談会出席者】(50音順、本文中敬称略)

また、どの科目もしっかり思考力を働かせて、解法の丸暗記ではなく、どういう原理でどう働いているかを理解していくことです。

あと、受験期に自分を支えてくれている親と先生方に感謝の気持ちを忘れないことも大切だと思います。



こうけつ しょうた
額縁 将太 (理II・麻布)

勝島 啓介 (理I・筑駒)

グノの英語は音声面も含めて教材もいいし、環境も揃っているので、それを最大限に活用して、サボらずに復習中心にやれば必ず力がつくので頑張っしてほしいと思います。

大野 峻典 (理II・麻布)

コツコツやるのが一番大事だと思います。僕は伸びない時期が結構長くて辛かったのですが、その時に頑張ったおかげで、後でグノと伸びました。そうした辛い時期こそ先生方のアドバイスを聞いて頑張っしてほしいと思います。

安居 孝晃 (理I・筑駒)

グノの復習を真面目にすべてやるというのは僕にはちょっと無理だったので、音読中心に絞っていました。ただ、棒読みするのではなくちゃんと意味を考えて読もうとすると案外難しいものです。結構、つかえちゃって。スラスラ読めるようになるまで頑張れば、自然と英語力がついてくると思います。

野村 俊一郎 (理I・開成)

勉強している教科を好きになることです。グノの場合は、英語が好きになれるような授業がなされていると僕は思っていました。グノの授業が楽しめるのなら、東大英語は大丈夫です。

野口 大心 (理II・学芸)

僕はグノの授業からいろんなことを吸収してほしいと思います。英語でいろんなことを学びながら、興味の幅を

広げていけば、ますます東大に入学するのが楽しみになるはずですよ。そうなれば、受験勉強にも力が入れると思います。

中島 義耀 (理II・世田谷)

私大も東大も受けた感想として、英語はブレにくい科目だと思います。一時期グノは辛いと思ったことが僕にはありました。延長授業と復習が大変で、でも、それだけ時間をかけた価値は絶対ありました。グノで英語をしっかり勉強してほしいと思います。

勉強全体のことを言えば、あやふやなところを残さないことが大事です。途中の過程を理解していないと必ずほころびが出てくるので、一つひとつ細かいところまで自分のものにしていく努力が大事です。

あとは、けっして諦めないこと。

それから、グノの先生方は、過去問の添削にしる、勉強法にしる、いろんなことに誠実に応えてくださるので、自分で悩むことも必要ですけど、相談してみるのもいいと思います。それがすごく励みになりますし、僕は直前期に先生からいただいたFAXをお守り代わりに受験会場に持って行きました。

角埜 裕基 (理II・開成)

英語は早いうちから固める努力をしてほしいと思います。あと授業にしっかり集中できるような小さな準備も大切です。たとえば授業前にパンを食べるとか、仮眠を取るとか。おなかが減って気持ちが散漫になったり、部活で疲れすぎていて途中で眠くなってしまったりしないように、自分の体調を小さな部分からコントロールしていくことが大事だと思います。



かどの ゆうき
角埜 裕基 (理II・開成)

山村 俊貴 (理I・学芸)

二次の本番で、この科目は何点、こっちは何点と具体的に決めて、そこに達するように勉強すると無駄がないと思います。もちろん考えていた通りには進まないのですが、そうした目安があると気休めにもなるし、ちょっと高めに設定して勉強しておけば、少々ミスっても「大丈夫だろう」と思えるものです。自分の実力を見極めて、これは何点取れると考えておくことは案外大事なことです。

松田 洋樹 (理II・筑駒)

英語に限ったことではありませんが、何が分かっていて何が分からないのかを意識していないと、途中で道を踏み外してしまうと思います。問題を解くときにも漠然とやっていたら、苦手分野を克服できません。普段から強化しなくてはいけない分野を意識して対策を立てていけば不得意科目もなくなります。東大の合格を目指すなら、意識的に不得意なところを潰していくことが大事だと思います。

平山 健太 (理II・駒東)

やっぱり東大は苦手分野を作らないことが大事だと思います。とはいえ、全てを得意にするのは不可能なので、苦手な分野でもある程度はできるようにしておいて、得意なところは確実に得点できるように力を伸ばしておくことが、ボーダー付近にいる人たちの合格必勝法だと思います。

泉田 森 (理II・学芸)

たとえば問題集を解くときにも目的をしっかり持って、「この穴を埋めるためにこれをやる」といった明確な意識を持つことと、やったときに、本当に役に立ったのかをチェックしておくことが大事だと思います。

勉強には人それぞれのやり方があると思います。自分に合ったやり方は最終的には自分で確立していく必要があります。

あと、勉強を苦痛にしちゃいけないと、僕は自分に言い聞かせていました。楽しんだ方が効率も実力も上がります。



おざき ゆうすけ
尾崎 佑輔さん
(弘前大学・世田谷学園)



さいま よしなり
斉間 至成さん
(金沢大学・暁星)



さの りさ
佐野 里紗さん
(慶應義塾大学・慶應湘南藤沢)



なかむら そう
中村 創さん
(横浜市立大学・暁星)



みなぐち りゅうのすけ
水口 竜之介さん
(群馬大学・開成)



よしかわ しょうご
吉川 正悟さん
(東京医科歯科大学・麻布)



よしだ かおる
吉田 薫さん
(千葉大学・駒場東邦)

Q：グノーブルに入ったきっかけは？

吉田 薫（千葉・駒東）

僕は中1からで、纒田先生の数学が最初です。中学受験の後、塾を探してくれたのは母でした。どこかでグノの噂を聞いて勧めてくれたのだと思います。確かに纒田先生は、算数好きだった僕にはぴったりの先生でした。

佐野 里紗（慶應・慶應湘南）

私も中1から纒田先生の数学を習っていました。母親も纒田先生のことはどこかで聞いていたみたいでしたが、グノのチラシをもらった友人から「一緒に行こう」と誘われたのが直接のきっかけです。英語は中2からでした。

水口 竜之介（群馬・開成）

高1の最初に、英語で入りました。開成の友だちがたくさん行っていた塾に僕も中学の間は通っていたのですが、授業があまり気に入っていませんでした。母が知り合いから聞いてきたグノに、とりあえず様子を見るために春期講習で参加してみました。

受けてみてすぐに、結構、驚きました。授業内に演習して、すぐに先生が添削してくれて、解説もその場で受けられる授業には初めて出会いました。すぐ集中できて、「いい塾に来たな」と思いました。

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

僕の場合、弟が先にグノに通っていました。弟からグノの魅力をあれこれ聞いて興味をもち、それで高2の夏期講習でグノに来てみました。

僕は小学生の頃アメリカに住んでいて英語にはそれなりに自信があったんです。でも、高校生になったあたりから学校の授業も高度になってきて、子どもの頃に身につけた英語力では通用しなくなってきて、英語をしっかりと勉強できるところを探していました。それで、弟からグノのことを聞いたんです。

ところが、入室テストを受けてみたら一番基礎クラスでした。このクラスで一番できるのは自分かもしれないと、勝手に思っていましたけど（笑）。

斉間 至成（金沢・暁星）

僕も高2で、春期講習から英語で入りました。それまでは東大専門塾で英語をとっていましたが、実力がついていく気がしなかったので塾を変えようと思っていたんです。グノを探してきたのは母です。

授業を受けてまず感じたのは、「雰囲気がいい」ということです。それまで通っていた塾ではやる気のない生徒もいましたし、多分、先生は僕の名前を覚えてくれていなかったと思います。グノでは初めから名前を覚えてもらえたとし、先生が生徒たちの方を向いて熱心に教えてくれるし、それに当ててくれるから、集中できました。

さいま よしなり
斉間 至成（金沢大学・暁星）

中村 創（横浜市・暁星）

高3の春期講習からです。僕は高2まで第一外国語にフランス語を選択していたんです。高3で具体的に受験を考えるようになって英語のいい塾を探していたところ、斉間君が「とてもいい塾だ」と勧めてくれました。実際、斉間君の英語の成績が急激に伸びている、ここなら自分でも力をつけられるんじゃないかと思ったんです。

実際来て見たら、先生はすぐに名前を覚えてくれたし、一人ひとり添削も毎回やってくれて、その熱心が印象に残りました。

尾崎 佑輔（弘前・世田谷）

うちの学校では、グノの英語は素晴らしいという評判があって興味を持っていました。高2の春期に来てみたら教室の中に引き締まった空気があり、授業のテンポが良くて「これは自分に

向いている！」と感じました。自宅でやるべきことも具体的で充実していて、この塾なら確実に力がつきそうだという手応えを持ちました。それと、僕も先生たちの熱心さには心が惹かれました。

Q：医学部を志した時期は？

吉田 薫（千葉・駒東）

昔から医者には興味はありましたが、高3の時に学校で、医学部の教授をされている先生の講演を聞き、その人の医師としての哲学に感動して真剣に医師を目指すことを決めました。

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

僕は親戚に医者がいて、その人に影響を受けました。ただ、臨床医にこだわっているわけではなく、研究にも興味はあります。医学の世界で生きていきたいとは思っていますが、将来の具体的な目標は大学入学後に考えたいと思います。

水口 竜之介（群馬・開成）

父親が医者で、幼いころから父親の姿を近くで見えてきました。すぐくやりがいのある仕事だなと感じ、その姿にあこがれ、ずっと医学部を目指していました。

中村 創（横浜市・暁星）

もともとは東大理Ⅱを目指していましたが、ところが高3の体育の授業中に右ひざの靭帯を損傷して手術をしたんです。その時の主治医の先生がとても素晴らしい方で、自分も臨床医として社会に役立ちたいと思い、医学部を目指そうと考えました。

斉間 至成（金沢・暁星）

中村君と同じで、最初は僕も東大理Ⅱを目指していました。バイオ系の研究を試みたかったのですが、途中から医学部に進路変更したのは将来の選択肢を広げたかったからです。臨床医になるのも一つの道だし、創薬研究や遺伝子工学、あと医療機器などにも興味があります。

佐野 里紗（慶應・慶應湘南）

中1の頃から漠然と医学部の道は考

えていましたが、私の学校は高校からの成績次第で推薦が決まるということを知っていて、「狭き門だ」とも思っていました。ただ、高2の1年間で全部の学部を見学して説明会も受けてみましたが、やはり医学部に一番興味を持ったので、そこから本格的に「医者になろう」と決意しました。

おざき ゆうすけ
尾崎 佑輔（弘前大学・世田谷学園）

尾崎 佑輔（弘前・世田谷）

僕は小学生の頃から漠然と、「将来は医師になりたい」という夢があったのですが、高3の4月頃に自分の将来について真剣に考えてみたんです。その結果、「やっぱり医師になりたい」という気持ちが本当に強く医学部を受験することに決めました。

Q：グノーブルの良かったところは？

尾崎 佑輔（弘前・世田谷）

よくありがちな英語の授業では、括弧を使ったり矢印を引いたりして英文の構造を解説することが中心です。でも、それだと新しい英文をスラスラ読めるようにはなかなかならないと思います。グノの先生がよくおっしゃっていましたが、そんな風に解析しながら読んでいく英語圏の人はいないわけです。

グノの場合、すべての先生が、返り読みをせずに理解するよう指導されますが、それが身につくと英文を読むスピードが上がり、英語を読みながらも自分がネイティブ的になれる気がします。

あと、質問に行くと、先生たちはいつも優しく丁寧に教えてくださいました。

斉間 至成（金沢・暁星）

「頑張らなきゃ」という気持ちにな

れたことです。周りには優秀な人がたくさんいました。要約の簡単な点数表が黒板に書かれるので、それでクラスの中での自分の位置を確認し、授業中に当てられる人が答えていく様子から周りがいかに優秀かを実感していました。それで、競争心とかライバル意識が自然に芽生えていました。

それから、*GSLの利用は本当に実力がつきます。高2の頃はしばしばサボったこともありましたが、効果を実感してからはしっかり活用していました。授業の解説で十分に理解している英文を使って、GSLで耳を鍛えて口慣らしをし、その後、音読をしていきます。それを続けていると、あるときから自然に自分の中に英語が入ってくるのを実感できます。これはなかなか口では説明しにくいことですが、音読をしっかりとやっった人とそうでない人では明らかに英語の伸び方が違ってきます。

佐野 里紗（慶應・慶應湘南）

中2で英語に通い始めてからは、英語は完全にグノだけの勉強で、いろいろな力がついたと思います。学校のテスト勉強はあまりしなくてもよくなりました。うちの学校は高校になるとTOEFLを受けるので専門塾に通っていた友だちもいましたが、私はグノだけでTOEFLのスコアも上がり続けました。

それから、学校には帰国子女が多くて、英語の授業だけ帰国クラスと一般クラスに分かれていました。英語の成績が良かったので、私は帰国クラスで授業を受けていたのですが、そのクラスでは、ネイティブの先生が英語でしかコミュニケーションをとってくれません。課題もハードでしたけど、帰国生の人に混じってこなせてくれたのは、間違いなくグノのおかげです。受験英語ばかりやっていたらありえなかったと思います。

グノの授業に来るのはいつも楽しみです。それは英文の内容がバラエティに富んでいたからです。学校ではラプス

トリーやホラーなどを扱っていましたが、グノで扱うのは最新の科学系の文章や哲学のものもありましたし、あとは芸術論や法律とか経済とか、本当に様々でした。

中村 創（横浜市・暁星）

グノの授業では自分が主体的な気持ちで参加できました。要約も英作も自分が考えて答案を作成して、それを先生がその場で添削してコメントしてくれます。それを踏まえて次の添削課題に備えるのは自分です。授業中に当てるのは先生ですが、当てられたときにどう備えるか、つまり普段からどう復習して実力を上げるかは自分の努力です。いつも先生と自分が信号を交わし合っているような感じだったので、主体的に授業にかかわる気持ちが生まれたのだと思います。

それから、僕は要約のプリントで、特に点数が悪かったものを暗記するまで音読していました。その積み重ねで、いつの間にかスラスラ読めるようになりました。

単語の解説にも感動していました。普通の授業だったらその意味と、rob A of Bとか、その使い方を教えてくれて、あとはこちらが覚えるだけだと思います。

なかむら そう
中村 創（横浜市立大学・暁星）

グノの場合、接頭辞や語根などから解説してもらえるし、同じ語根の言葉も黒板に並べて書いてくれます。それだけでも興味深い上に、大切な動詞については、先生がさらさらと例文をいくつも黒板に書いていきます。一見、情報が多くて大変そうですが、不思議なことにその方が、「なるほど」って

思えて意味も良く分かるし印象深くなるし、何より面白いと思えるのです。

水口 竜之介（群馬・開成）

英語がスラスラ読めるようになって、それですます英語が好きになる。そんな状態になれたことにとっても感謝しています。

世間で話題になったばかりの出来事がすぐに教材になるというのも新鮮でした。それに先生の話はいつも生き生きとしていて、僕たちが飽きないような授業を展開してくださいました。

添削の返却後、すぐに先生がしてくれた勉強法の話にも、何度もやる気を喚起されました。先生が僕たちの答案を添削して実感されたことなので思わず聞き入っていました。

あと、G S Lは僕にとって欠かせませんでした。模試の前にも、本番前にもG S Lを聞いて頭のウォーミングアップをして、テストが始まったらスッと英語を読めるようにしていました。

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

先生のやる気をいつも感じていました。先生にやる気があると生徒たちもやる気になると思います。1回1回の授業を終えると、「勉強した！」という充実感が毎回得られました。

僕は「グノート」と名付けたオリジナルノートを作って、授業でやったプリントを毎回貼り付け、大切なことを書き込み、復習しやすいようにしていました。基本的に英語の勉強はそれだけでしたが、十分に力がついたと思います。それぞれの文章を最低でも30回は読んでいます。

吉田 薫（千葉・駒東）

普通の受験塾なら大学の過去問が教材で、宿題の答え合わせが中心になると思いますが、グノの場合は常に新しい発見ができる英文が教材で、先生はその英文の背景も分かりやすく話してくださいました。つまり、グノの先生は、幅広い教養も僕たちに与えてくださったのだと思います。教養が広がるにつれ、初めて目にする英文でも読む力が向上するわけで、英単語や文法的

知識だけでは深い文章には対応できません。その意味で、グノの英語指導は正しいと思います。

G S Lは続けることが大事です。最初は「速すぎる」と感じていたのですが、くじけずに続けているとネイティブの音声が目になじみ、リスニング力も向上し、音読の習慣との併用で、英文の読み方が速く正確になりました。

先生の妥協しない姿勢もとても印象的でした。多分、教材の準備にも、授業にも、僕たちへの対応にも、すべてのことに妥協されないのだろうと想像していました。

Q：グノーブルに不安を感じたことは？

尾崎 佑輔（弘前・世田谷）

グノの場合は単語帳を使うことを推奨しません。長文から自分の分からない単語を拾っていくという形式です。普通の受験勉強とは違うやり方に不安を覚えたこともありましたが、模試を受けてみても成績が取れていたのので、不安はすぐに解消されました。

斉間 至成（金沢・暁星）

以前通っていた東大専門塾ですと必死になって単語を覚えるような宿題が出ていましたが、どう考えても生産的なやり方ではありませんでした。医学などの専門用語であれば暗記は必要かもしれませんが、大学受験で大切なのは専門的な単語ではなくて、英文の中でよく使われる、いわば基本語彙だと思っています。実際に使われている英文の中で身につけていく方が効率的だというグノの方針には自分は納得がきました。

佐野 里紗（慶應・慶應湘南）

私の場合は推薦で大学に進む人が多い学校でしたから、周りに、いわゆる受験勉強をやっている人が少なく、危機感や不安を感じる対象自体がありませんでした。

私は他大学の医学部受験も考えていましたから模試も受けましたが、英語の成績は良かったし、帰国生クラスに

も入れて、その中でもやっていけたので、グノの授業を信じ切っていました。



さの り紗 (慶應義塾大学・慶應湘南藤沢)

中村 創（横浜市・暁星）

僕はもともと他人を意識するタイプではないので、自分の信じた先生とその指導方法を徹底的にやっていたと考えていました。

水口 竜之介（群馬・開成）

以前通っていた塾で英語の力が伸びなかったでグノに移ってきました。ここのやり方で英語が好きになって、実際に成績が伸びたという現実があったので、僕はグノの授業に満足していました。

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

受験塾なのだから受験に特化した勉強をやるべきだとか、ひたすら単語を覚えて過去問を解いた方が効率的という考え方もあるんですが、楽しくなければ勉強はできないと思います。

グノの場合、先生の説明が楽しいだけではないんです。基本的に、将来活用できる英語力を目指すというのがあって、そのために、前から順に読む力を鍛えたり、音声面を重視したりというやり方をされていて、それをやっていると実際に力がつくし、力がつけばその科目は面白いわけです。そういうのがグノの良さだと思うので、不安なんて全く感じたことがありません。

吉田 薫（千葉・駒東）

僕も不安を感じたことはありませんでした。グノのやり方で学校の英語でも問題なくできていましたし、模試でも成績はとれていました。結局、グノの英語というのは英語の本質を学びな

がら受験にも十分対応できる力を養ってくれるものだったので、どちらかという得をした気分でした。

Q：英語以外で印象的だった科目は？

佐野 里紗（慶應・慶應湘南）

おだ先生の授業が好きでした。私は受験校ではないので、中1の頃は数学を本格的に勉強していなかったため、唯一おだ先生の授業で難しい問題に取り組みましたが、とても面白く勉強できました。中1にしてみてもかなり高度なことを勉強しますが、楽しく教えてくださるので苦痛に感じることは全くなく、どんどん数学が好きになっていきました。



よしかわ しょうご (東京医科歯科大学・麻布)

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

中3から高1まで、数学は東大専門塾に通っていましたが、そこは、宿題をやっている、授業中には解説を聞くだけでした。解説を聞いているのが退屈でそこを止めてからは、数学はしばらく自分一人で勉強していました。

数学の場合、自分で勉強するのは、効率のいいやり方だと思うんです。というのも数学は問題を解く量が重要だと僕は考えているので、どんどん問題を解きまくっていたその時期はそれで良かったと思っています。

でも、グノに通っていた学校の友だちの話聞いて、高3でグノに入ってみたら、集団授業で効率が悪くなることは全くなくて、かえって効率の良い勉強ができるようになりました。問題演習形式の授業で、自分にあった良問をどんどんその場で解くことができるし、必要に応じて適切な解説が受けられ

たので、より一層理解が深まりました。

吉田 薫（千葉・駒東）

中1からおだ先生に数学を習いましたが、数学への興味をかき立てていただいたと思います。授業でやる問題の内容や、先生の接し方まで含めて、おだ先生の授業は、「勉強って面白い」と感じられるものでした。それでいてしっかり数学の基本を学べて、できる人はどんどん難しい問題にもチャレンジさせてくれましたし、知らず知らずのうちにレベルアップしていたように思います。

高2、高3でも実力を伸ばしていたので、数学は得意科目になっていました。特に、手塚先生の解説は、基本を大切にされた上で、それ以外にも様々な視点に立った別解を紹介してもらえて、解法の引き出しが増えたというか、同じ問題を見てもいろんな見方ができるようになったと思います。

中村 創（横浜市・暁星）

僕は受験学年で、数学を手塚先生と越川先生に習いました。医学部の場合数ⅢCが特に求められますが、それを基礎から教えていただきました。添削も丁寧にしてくださいましたし、記述で減点されるポイントなども教えてくださって、先生方にはとても感謝しています。

斉間 至成（金沢・暁星）

僕は講習だけでしたが、小論文を受けました。医学部に志望を変えたのが秋だったので、それまでは小論文というものがどういうものかさえ知らなかったのが、冬期講習をわずか4日受けただけで取り組み方が学べて本番も上手く書けました。

Q：学校でグノーブルの評判は？

吉田 薫（千葉・駒東）

中1の頃は僕の学校でグノに来ていた人は多分他にはいないと思います。でも、だんだんと増えてきて、特に英語の力を伸ばしたい人がグノを選ぶようになってきて、僕の同学年の人でも

グノに通って東大に入った人はたくさんいました。

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

評判は良かったです。僕と同学年の人かなりグノに通っている人は多かったですね。英語だけでなく数学の評判も良くて、それを聞いて僕もグノで数学を習うことにしました。



みなくち りゆんすけ (群馬大学・開成)

水口 竜之介（群馬・開成）

僕の学校では、グノに行っている人は皆、英語がよくできて、 α クラスにいた人は学校内の実力テストでも常にトップクラスにいました。やっぱり開成でも「英語のグノ」という評判だったと思います。

中村 創（横浜市・暁星）

他の学校ほどは話題にはなっていないと思いますが、やはり英語がいい塾という評判は聞こえてきました。

斉間 至成（金沢・暁星）

僕が入った頃は何も聞きませんでした。最近では周りでもグノに通いはじめる人が増えました。新しく勢いがあって、英語を伸ばしてくれる塾というイメージだと思います。

佐野 里紗（慶應・慶應湘南）

私の学校からは、だいたい毎年1人くらいはグノに通っている人がいるという程度です。なにしろ学校が遠いので。友だちから「英語何やっての？」と聞かれてグノのことを話したこともあったのですが、場所を聞かれて「新宿」と答えると、「それ無理」と言われてしまいました。

尾崎 佑輔（弘前・世田谷）

同じクラスでグノに通っていた人が

いて、英語の成績がとてつもなく良く、そうしたこともあってクラスの中で英語はグノに通っている人が結構多くて、その人たちから評判を聞いていました。

Q：受験で役立ったことは？

吉田 薫（千葉・駒東）

僕の受けた大学は英作文の比率が高かったのですが、グノで添削していただいていたことがとても役立ちました。

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

医科歯科は要約がかなりの点数を占めるので、授業で毎回要約をやっていたことが役立ちました。今年は1500語程度の、災害時における医療というテーマの長文を読み、それを400字以内でまとめるという問題でしたが、普段から主旨を正確に押さえることを学んできましたから、すんなりとできました。他にも小問はいくつかありますが、おそらくその要約が半分ぐらいのウエイトを占めていると思います。

水口 竜之介（群馬・開成）

僕はなんといっても長文を読むスピードが上がっていたので本番でもスラスラ読めたことです。語彙力もついていたので、分からない単語もほぼありませんでした。

中村 創（横浜市・暁星）

僕も長文を読むスピードです。横浜市はでかい長文題が3題あるので、以前のスピードならとても終わらなかったはずですが、やっぱり長い文章を読みこなすためには、返り読みをすることは追いつかないと思います。

齊間 至成（金沢・暁星）

英語というのは総合的な能力が問われる科目だと思うので、グノでそれを培っていれば、どんな問題にも対応できるという自信がありました。

尾崎 佑輔（弘前・世田谷）

僕の大学の入試問題は大問が4つあって、そのうちの3つが長文問題だったのですが、読むスピードが速かったため、とても有利に試験を進められたと思います。また最後の大問は英作文

で、グノで丁寧に添削を受けていたので苦勞せずに終えることができました。本当に英語はグノで良かったと思っています。

Q：医学部を目指す後輩にアドバイスを。

尾崎 佑輔（弘前・世田谷）

受験勉強に力を入れ始める時期を早くした方がいいと思います。高2の秋には完全にスイッチを切り替えて受験モードに入るべきです。というのも僕は部活の影響で受験勉強を本格的に始めたのが高3の4月だったんです。それまでほとんど勉強していなくて、受験までかなり苦しい思いをしました。そうした苦しみは受験勉強を早く始めることで軽減できるはずなので、遅くとも高2の秋には開始するのがいいのではないのでしょうか。早ければ早いほどいいとは言えませんが。



よしだ かのる
吉田 薫（千葉大学・駒場東邦）

吉田 薫（千葉・駒東）

僕は特別な勉強法をしていたわけではないので、気持ちの面からのアドバイスですが、最後まで諦めないでほしいと思います。「この成績じゃ無理だろう」と悩んで立ち止まっているより、普通に勉強を積み重ねていくことが大切です。僕の場合、千葉大はセンターの比重が高いのに、そのセンターで失敗してしまって、「これは難しいかな」とも思いましたが、それでも二次のために頑張って勉強していたら合格できました。絶対に最後まで受かろうとする気持ちを捨てないで頑張って

ほしいと思います。

佐野 里紗（慶應・慶應湘南）

私も、気持ちが折れてしまわないことは大事なことだと思います。私自身の内部推薦について言うと、最後の医学部志望者の面接まで、誰が医学部を目指しているのか分からなかったんです。高1からの成績の積み重ねで決まると言われていましたが、その成績も公開されませんでしたし、基準になるのは成績だけじゃないという噂もありました。不明なことが多すぎると不安に襲われます。そんな中で、途中で医学部を諦めてしまう人もいましたが、私は最後の実力テストまで頑張り続けて良かったと思います。

吉川 正悟（医科歯科・麻布）

頑張れ！ということです。僕は高1、高2ぐらいまでは勉強もサボり気味で成績もよくありませんでしたが、最後の方になって良くなってきたので、まあ、やる時には頑張ろう、ということです。

水口 竜之介（群馬・開成）

将来どんな職業につきたいかを考えておくと、それがやる気につながると思います。また医学部の場合は、自分の将来を考えることで小論対策にも面接対策にもなります。

中村 創（横浜市・暁星）

どんどん新しいことを覚えていくよりも、1度間違えたことを2度と間違えないようにすることが大事だと思います。僕は全教科でメモ帳をつくって、1度間違えたことを全て書き込んで忘れないように心がけていました。僕にとってはそうした小さな努力が成績を上げるポイントだったと思います。

齊間 至成（金沢・暁星）

受験に対する心構えについてです。無責任な精神論に聞こえると困るんですけど、たとえば試験中に数学の問題を解いていて解法が思いつくかどうかというのは、気持ちの強さもあると思います。つまり気持ちで負けるんじゃなくて、強気に勝ちに行っていってほしいと思います。



6期生の皆さん、おめでとうございます。
これからの活躍を期待しています。